

第5章 地域別の現状分析を踏まえた公共施設のあり方の検討

5-1 地域レベルでの現状分析を行う目的

第4章で示した類型別方針は、主に、施設の現状等（「品質（老朽化の状況）」、「供給（利用状況）」、「財務（コスト状況）」等）に応じた中長期的な施設のあり方について広域（市域）レベルで検討を行い、全市的な観点から定めたものです。

第5章では、施設類型のうち、より地域に即した施設について、それぞれの地域の課題と特徴に応じた施設のあり方を検討するため、地域レベルの観点から現状分析を行います。

今後、具体的な取組を進める中で、これら2つの観点を相互に関連させることにより、適正な施設のあり方や配置の方向性を見出していきます。

また、地域の現状や課題を十分に把握するため、市民が参画できる仕組みづくりを進めます。

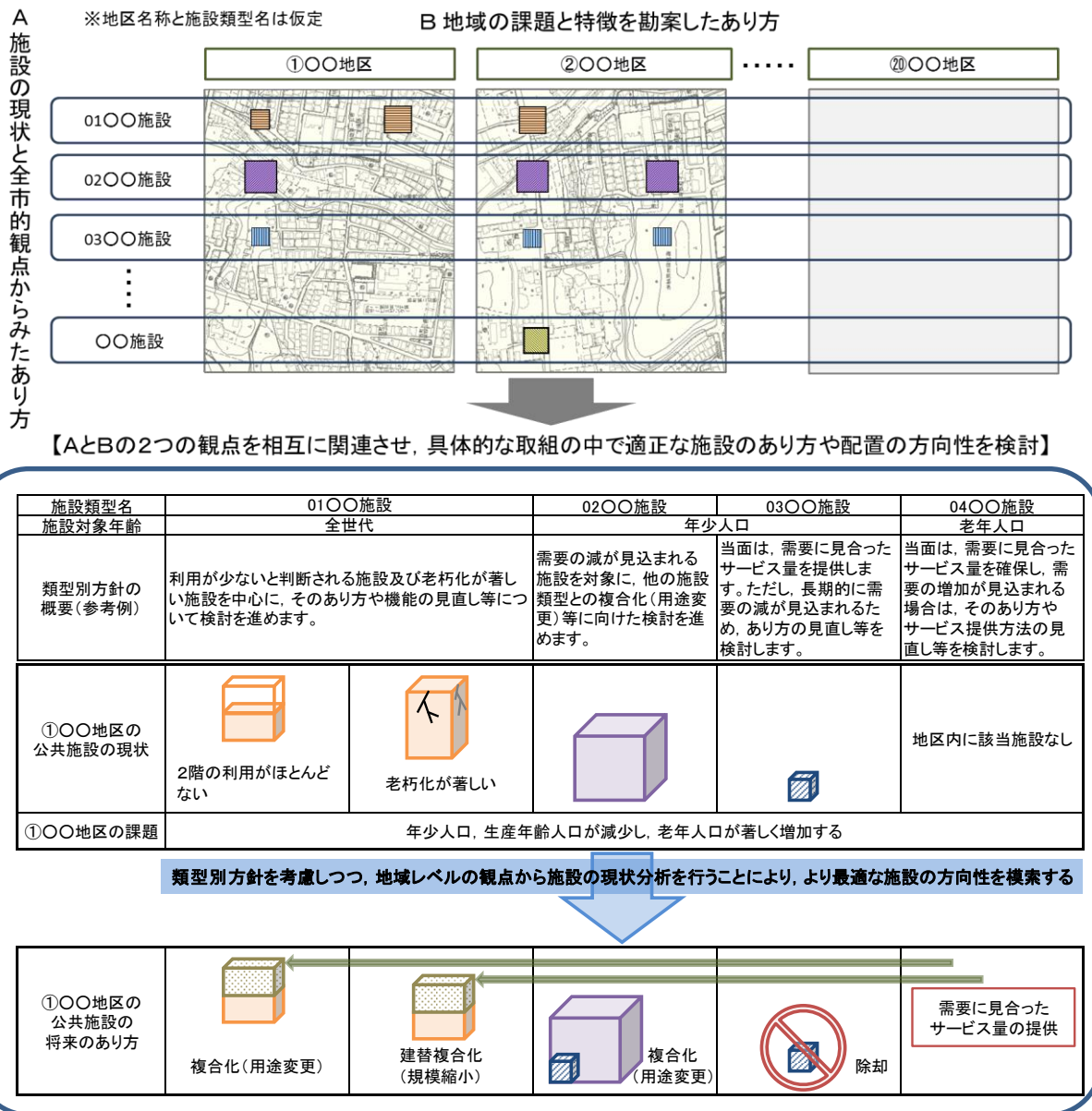


図 67 地域レベルの観点を加えた施設の方向性の検討例

5-2 分析の基本的な考え方

5-2-1 地域区分の考え方

柏市では、昭和50年代から新旧住民の融和と地域自治意識の向上を目的とした「ふるさと運動」が展開され、現在では近隣センターを活動拠点とした住民組織である「ふるさと協議会」が市内20の地区（コミュニティエリア）に組織されています。

地域レベルでの現状分析を行うにあたっては、柏市都市計画マスタープランや柏市高齢者いきいきプラン21等の諸計画と同様に、この20の地区を小圏域として設定し、地域区分の基礎単位とします。

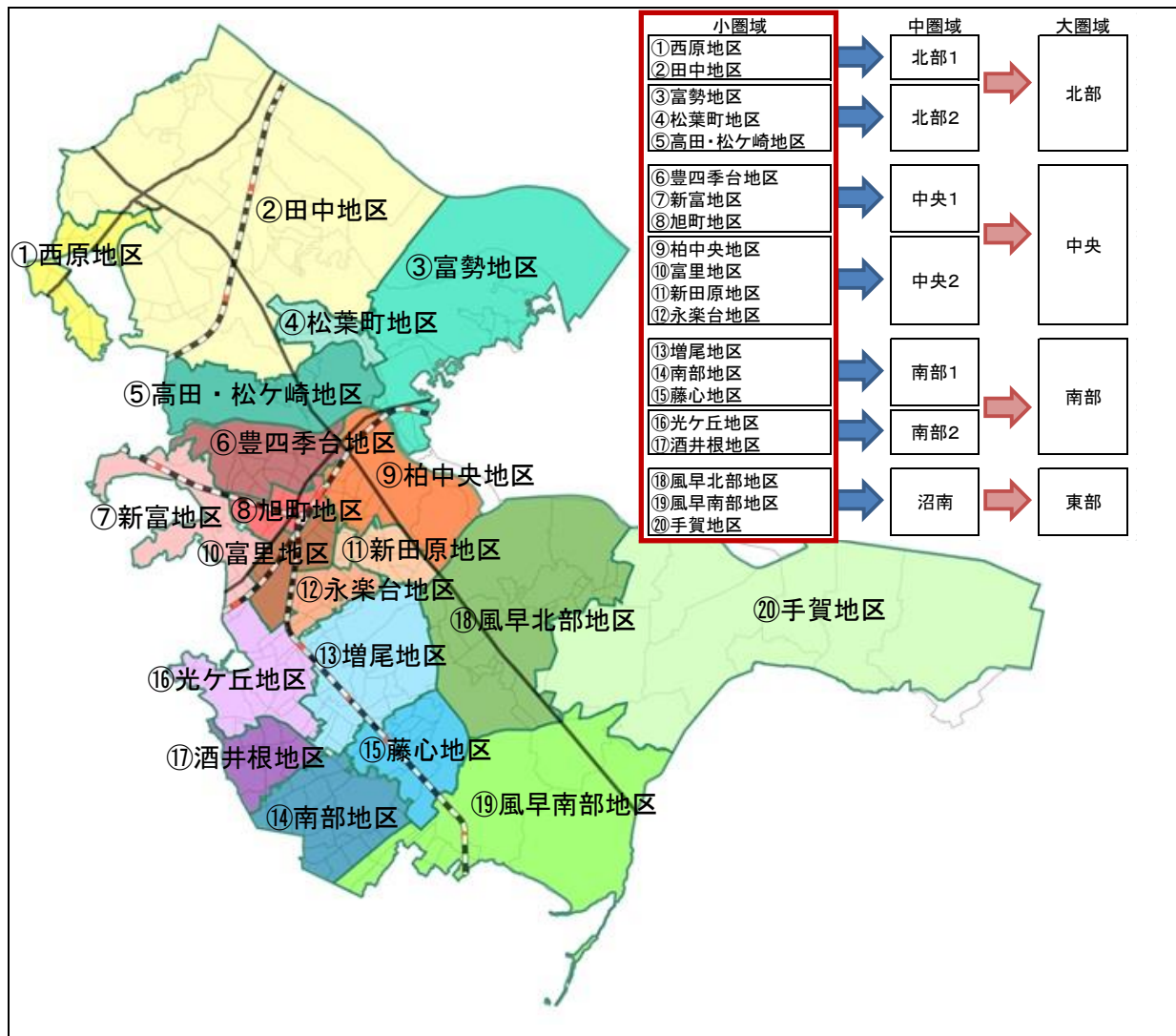


図 68 分析の基礎単位となる20地区（コミュニティエリア）

5-2-2 地域対応施設の抽出及び分析に用いる指標

地域ごとに公共施設を分析していく際には、全市的な利用を目的とした広域対応施設は除き、より地域に利用が限定され、各地域に概ね均等に配置された施設（地域対応施設）を抽出した上で、利用状況や配置状況を分析します。

また、各地域の人口動向を十分に加味した上で、人口が多い地域、少ない地域を同じ指標で比較検討するため、地域対応施設の保有量（延床面積）を地区面積、地区人口で割った「面積1k㎡あたり」、「人口1人あたり」の数値を用いて分析します。

表8 地域対応施設の抽出

大分類	中分類	小分類	地域対応施設	大分類	中分類	小分類	地域対応施設
01市民文化系施設	01集会施設	01近隣センター	⇒01近隣センター	07保健・福祉施設	03保健施設	01総合保健医療福祉施設	
		02自治会館等	⇒02自治会館等			02保健所	
	02文化施設	01市民文化会館				03保健センター	
		02アミューゼ柏				04動物愛護ふれあいセンター	
02社会教育系施設	03交流施設	01市民サロン			04福祉施設	01地域医療連携センター	
	01図書館	01図書館	⇒01図書館			02地域生活支援センター	
	02公民館	01公民館				03ボランティアセンター	
	03博物館等	01文化財				04地域福祉センター	
	04その他社会教育施設	01資料展示室		08医療施設	01医療施設	01医療センター	
03スポーツ・レクリエーション施設	01スポーツ施設	01少年補導センター				02病院	
		01体育館		09行政系施設	01庁舎等	01庁舎	
		02運動場				01庁舎(出張所)	
		03市民プール				02その他	
		04庭球場			02消防施設	01消防庁舎	⇒01消防庁舎
	02レクリエーション施設	01青少年センター				02消防団器具置場	⇒02消防団器具置場
04産業系施設	01産業系施設	01農業公園			03環境施設	01清掃収集事務所	
		02農業センター				02最終処分場	
05学校教育系施設	01学校	01小学校	⇒01小学校	10公営住宅	04防災施設	01防災会館	
		02中学校	⇒02中学校			02防災備蓄倉庫	
		03高等学校		11公園	01公園	01市営住宅	
	02その他教育施設	01教育支援室				01公園	
06子育て支援施設	01保育園	02学校給食センター		12供給処理施設	01供給処理施設	02緑地等	
		01保育園	⇒01保育園			01清掃工場	
		01児童センター				02リサイクルプラザ	
	02幼児・児童施設	02こどもルーム	⇒02こどもルーム	13その他	01その他	03し尿処理施設	
07保健・福祉施設	03幼児・児童福祉施設	03その他				01公設市場	
		01こども発達センター				02駐輪場	
	01高齢者福祉施設	01老人福祉センター				03駐車場	
		02デイサービスセンター				04その他	
		03老人いこいの家		14未利用施設等	01未利用施設	01スポーツ施設	
		04介護予防センター				02その他教育施設	
		05介護老人保健施設				03子育て支援施設	
	02障害福祉施設	01障害福祉サービス事務所				04公営住宅	
		02障害福祉作業所				05その他	
		03障害福祉就労支援センター		02廃止予定施設		01勤労会館	
		04その他				02市営住宅	

表 9 地域別にみた地域対応施設保有量（2014 年）

20コミュニティ	地域対応施設保有量			
	保有数	延床面積 (㎡)	地区面積1km ² あたり延床面積 (㎡/km ²)	地区人口1人 あたり延床面積 (㎡/人)
①西原地区	8	16,422	10,137	0.96
②田中地区	26	46,549	2,697	1.11
③富勢地区	20	31,960	6,329	1.30
④松葉町地区	12	27,703	23,477	2.34
⑤高田・松ヶ崎地区	11	20,452	5,013	1.10
⑥豊四季台地区	15	41,843	14,944	1.38
⑦新富地区	9	16,104	5,178	0.75
⑧旭町地区	9	12,921	11,235	1.06
⑨柏中央地区	10	20,019	6,103	0.77
⑩富里地区	10	18,256	10,997	0.92
⑪新田原地区	6	11,011	8,809	0.77
⑫永楽台地区	5	13,609	11,341	1.16
⑬増尾地区	17	40,829	9,301	1.87
⑭南部地区	13	23,137	6,137	0.96
⑮藤心地区	6	13,548	4,315	0.93
⑯光ヶ丘地区	9	18,132	5,445	0.54
⑰酒井根地区	11	28,150	15,134	2.22
⑱風早北部地区	17	32,876	3,657	1.28
⑲風早南部地区	17	27,329	2,549	1.21
⑳手賀地区	14	11,528	517	2.52
平均	12	23,619	8,166	1.26
合計	245	472,378	163,316	25.12

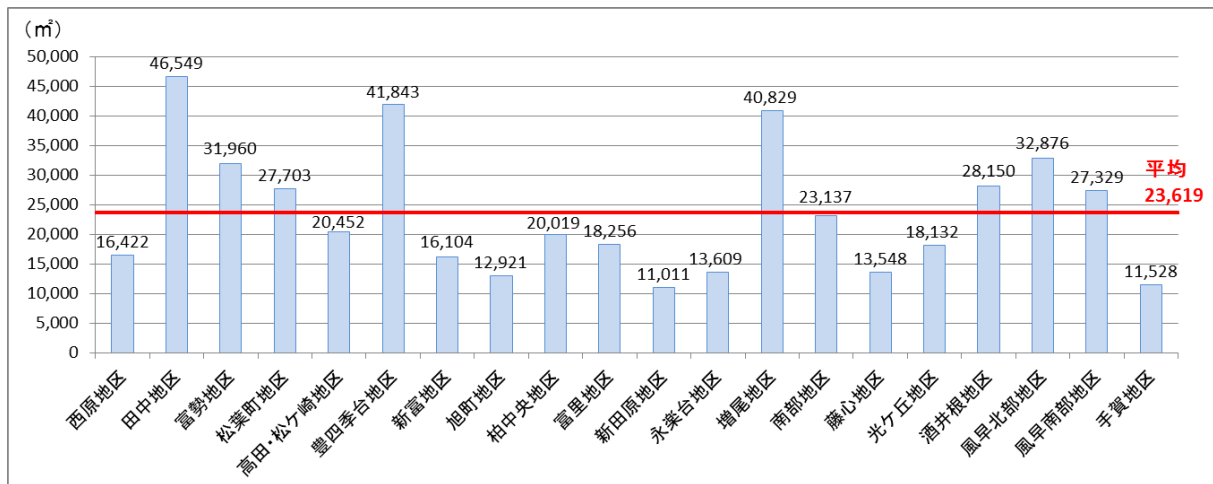


図 69 地域別にみた地域対応施設延床面積 (2014 年)

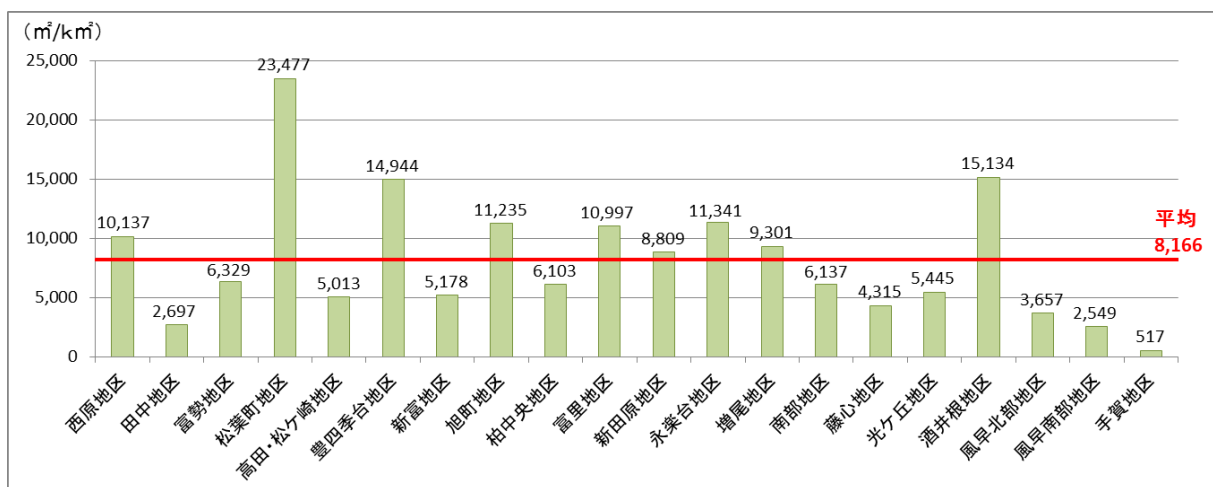


図 70 地域別にみた面積 1 km²あたり地域対応施設延床面積 (2014 年)

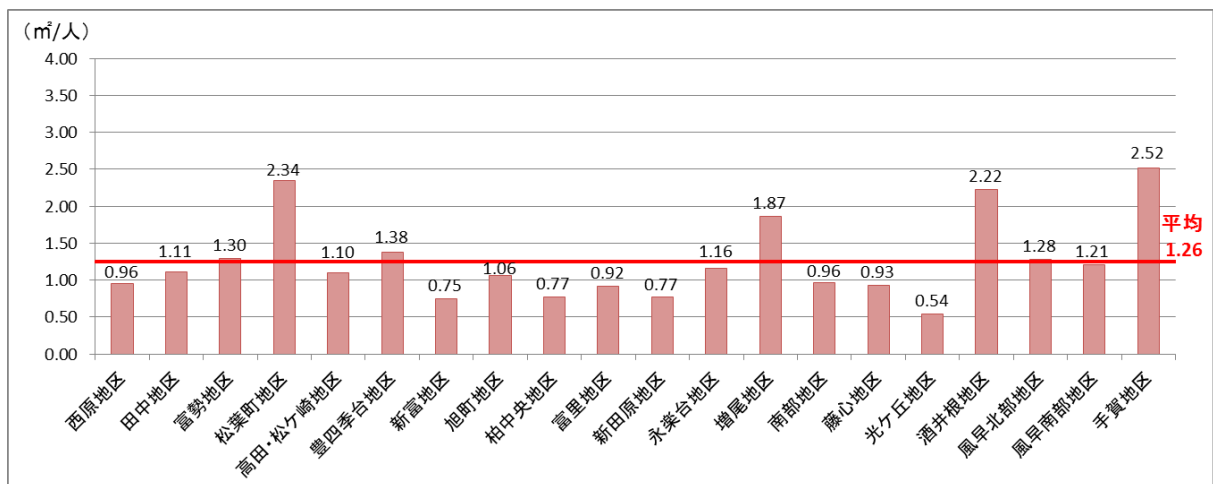


図 71 地域別にみた人口 1 人あたり地域対応施設延床面積 (2014 年)

表 10 地域別にみた人口指標

20コミュニティ	人口指標			
	2014年人口 (人)	2040年人口 (人)	2040年 高齢化率(%)	2014年⇒ 2040年 増減率(%)
①西原地区	17,186	12,294	42.3	-28.5
②田中地区	42,076	70,201	27.6	66.8
③富勢地区	24,643	15,519	44.0	-37.0
④松葉町地区	11,830	6,948	55.5	-41.3
⑤高田・松ヶ崎地区	18,616	20,661	30.7	11.0
⑥豊四季台地区	30,301	32,739	29.5	8.0
⑦新富地区	21,593	25,937	25.0	20.1
⑧旭町地区	12,227	16,470	25.1	34.7
⑨柏中央地区	25,876	30,193	27.5	16.7
⑩富里地区	19,938	19,301	29.4	-3.2
⑪新田原地区	14,370	12,872	31.0	-10.4
⑫永楽台地区	11,782	11,210	32.8	-4.9
⑬増尾地区	21,878	15,384	41.7	-29.7
⑭南部地区	24,007	18,634	38.3	-22.4
⑮藤心地区	14,642	11,172	39.5	-23.7
⑯光ヶ丘地区	33,421	27,763	35.0	-16.9
⑰酒井根地区	12,671	12,006	31.2	-5.2
⑱風早北部地区	25,664	20,212	34.7	-21.2
⑲風早南部地区	22,523	22,771	28.7	1.1
⑳手賀地区	4,579	2,951	43.4	-35.6
平均	20,491	20,262	34.6	-6.1
合計	409,824	405,238		

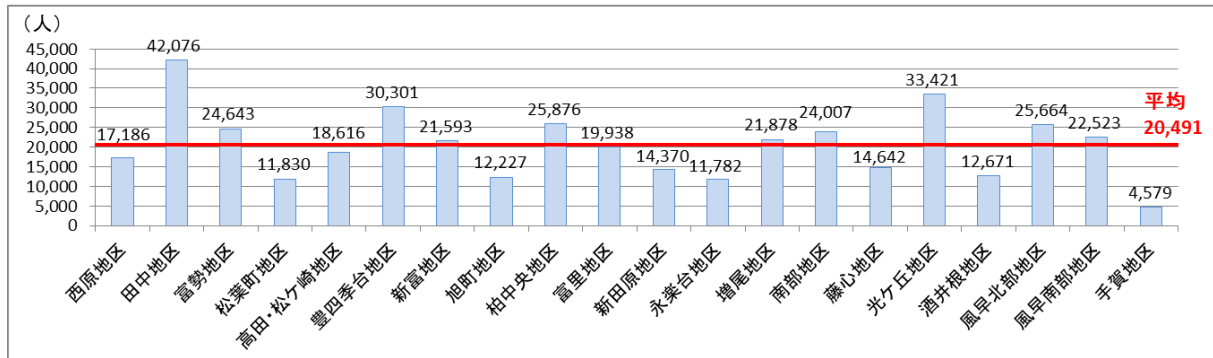


図 72 地区別人口 (2014 年)

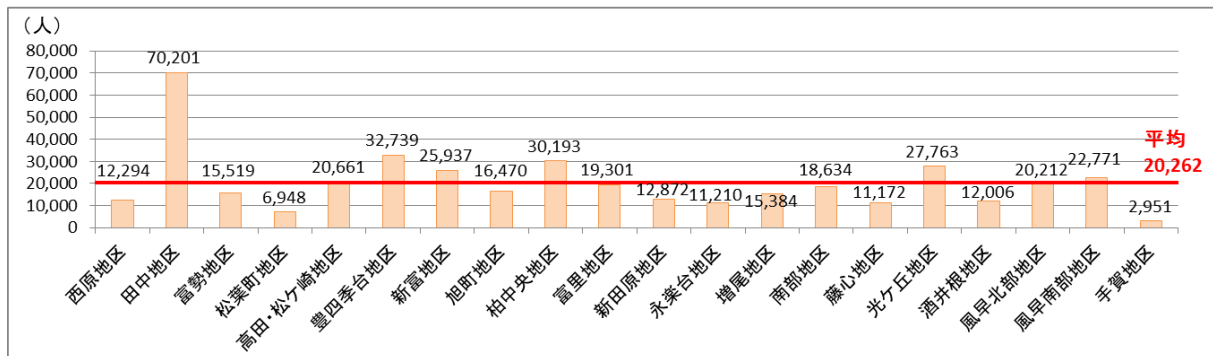


図 73 地区別人口 (2040 年予測)

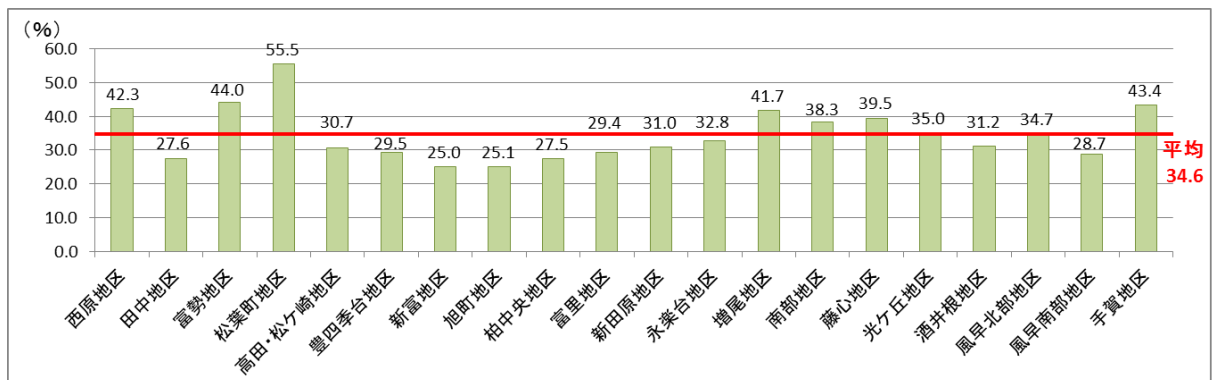


図 74 地域別にみた高齢化率 (2040 年予測)

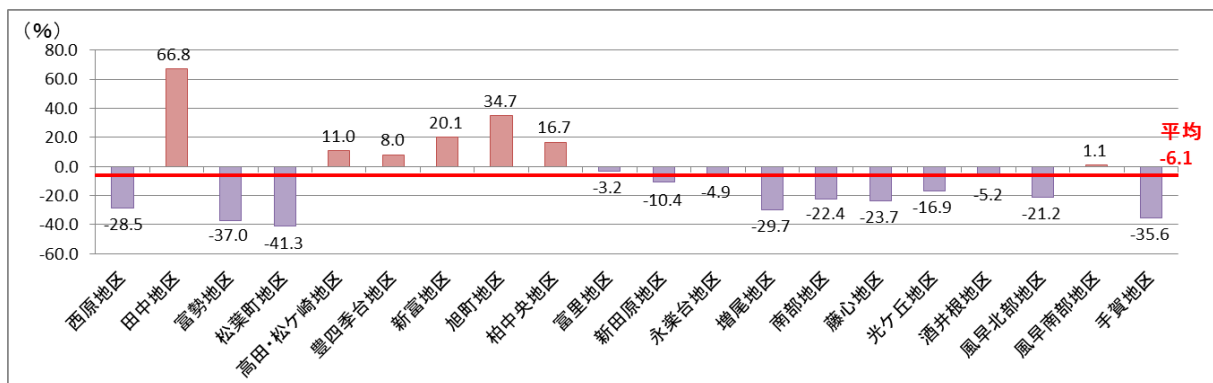


図 75 地域別にみた人口増減率 (2014 年⇒2040 年予測)

5-3 地域レベルでの現状分析

5-3-1 西原地区

①地区の概況

- ・西原地区は、本市北部の最西端に位置し、流山市に囲まれる地域です。
- ・主に住宅地で形成される地区で、鉄道駅利用や買物等については、本市よりも流山市に依存する傾向が強い地域となっています。
- ・近年は人口動向も安定的な状況にあり、既存住宅地の住環境整備に対する意識が高い地区でもあります。
- ・地区内に鉄道駅はありませんが、北西部と南西部にそれぞれ、江戸川台駅と初石駅（どちらも流山市）が存在します。

②まちづくりの課題

- ・概ね市街化され、人口増加も見込まれないことから、現居住者の生活環境を良くするためのまちづくりを進めるとともに、他地区への移動性を確保するための交通整備が課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に8施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は10,137㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.96㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は29.1年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。

表 11 地域対応施設保有量等の状況（西原地区）

【平成26年度末現在】	西原地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)		
地区人口(人)	17,186	01集会施設	01近隣センター	2	1,120		
地区面積(k㎡)	1.6		02自治会館等				
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	10,137	01図書館	01図書館	1	105		
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.96	01学校	01小学校	1	6,791		
01近隣センター 01図書館 01小学校 02中学校 01保育園 02こどもルーム			02中学校	1	7,286		
			01保育園	01保育園	1	915	
			02幼児・児童施設	02こどもルーム	2	204	
			02消防施設	01消防庁舎			
				02消防団器具置場			
			合計			8	16,422

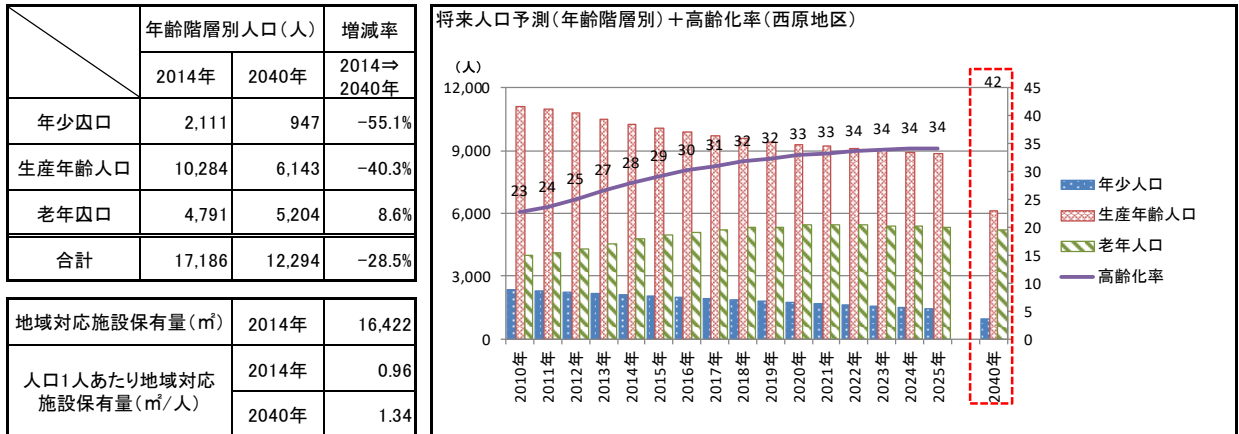
表 12 地域対応施設利用量等の概要（西原地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均				
西原近隣センター	493	3年平均利用者数(人)	12,377	34,670	26.4%	36.2	12,065
西原近隣センター体育館	627	3年平均利用者数(人)	19,180	21,822	83.1%	27.7	10,003
図書館西原分館	105	3年平均年間貸出冊数(冊)	89,448	117,010		36.2	4,348
西原小学校	6,791	3年平均児童数(人)	676	511		38.1	90,644
西原中学校	7,286	3年平均生徒数(人)	561	499		33.3	82,814
西原保育園	915	3年平均園児数(人)	135	133		38.0	7,108
西原小こどもルーム	128	3年平均入所児童数(人)	53	42		13.5	2,232
西原小こどもルーム第二保育室	77	3年平均入所児童数(人)	28	42		9.8	4,721
合計	16,422				平均	29.1	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 17,186 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 12,294 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 28.5%の減少、また、2040 年の高齢化率は 42.3%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口が半数以下に減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.38 ㎡の増加となっており、現在の保有水準よりも増加するため、人口構成に合わせた施設機能の再編や、総量の縮減等が必要となります。

表 13 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（西原地区）



5-3-2 田中地区

①地区の概況

- ・田中地区は、本市の最北端に位置し、農村色が強く、自然も多く残る一方で、平成17年8月に開通したつくばエクスプレスの2駅を中心とした市街地整備が進展している地域です。
- ・地区の北部は、市街化調整区域に指定されており、農地等がまとまって存在しています。
- ・地区の中央部は、工業団地や公設市場等が立地し、本市の産業拠点となっています。
- ・地区の西部及び南部は、柏の葉キャンパス駅を中心に、大規模商業施設や高層マンション等が立地し、大学・研究機関も集積しています。

②まちづくりの課題

- ・北部地域の中核地区となるべく、計画的な都市基盤の整備を進めるとともに、市街化調整区域（地区の北部）においては、いかにして自然環境を保全していくかが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に26施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は2,697㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.11㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は23.1年で、30年を老朽化の基準とすると、やや老朽化している状況にあります。
- ・田中北小学校は、市内平均と比べて児童数が少ないものの、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中では、将来的に学校規模は適正となることが予測されています。
- ・田中小学校や花野井小学校は、現在学校規模は適正であるものの、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中では、将来的に学校規模は大規模となることが予測されていることから、大規模校としての将来的な教育環境のあり方も含め、田中地区全体の通学区域再編の中で検討を行う必要があります。

表 14 地域対応施設保有量等の状況（田中地区）

【平成26年度末現在】	田中地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	42,076	01集会施設	01近隣センター	5	2,743
地区面積(k㎡)	17.3		02自治会館等	2	542
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	2,697	01図書館	01図書館	1	172
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	1.11	01学校	01小学校	5	31,610
			02中学校	1	7,239
		01保育園	01保育園	1	862
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	4	700
		02消防施設	01消防庁舎	3	2,310
			02消防団器具置場	4	371
		合計		26	46,549

1.5% 5.0% 0.8% 5.9% 1.2% 0.4% 1.9% 15.6% 67.9%

- 01近隣センター
- 02自治会館等
- 01図書館
- 01小学校
- 02中学校
- 01保育園
- 02こどもルーム
- 01消防庁舎
- 02消防団器具置場

表 15 地域対応施設利用量等の概要（田中地区）

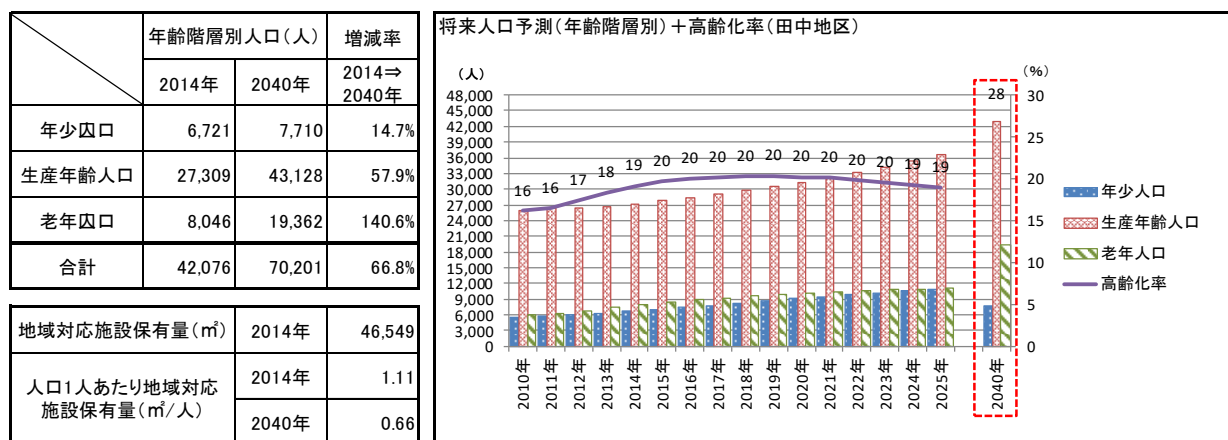
施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均				
田中近隣センター	930	3年平均利用者数(人)	15,316	34,670	31.6%	36.0	14,866
柏ビレジ近隣センター	400	3年平均利用者数(人)	23,986	34,670	44.7%	33.4	5,147
北部近隣センター	592	3年平均利用者数(人)	4,777	34,670	22.2%	25.0	7,700
田中近隣センター体育室(館)	405	3年平均利用者数(人)	10,947	21,822	37.6%	36.0	1,639
北部近隣センター体育室(館)	415	3年平均利用者数(人)	13,283	21,822	56.7%	25.0	-683
船戸会館	268					27.1	
山高野自治会館	275					27.0	
図書館田中分館	172	3年平均年間貸出冊数(冊)	85,642	117,010		36.0	4,349
田中小学校	5,663	3年平均児童数(人)	639	511		41.7	79,933
田中北小学校	4,869	3年平均児童数(人)	116	511		37.9	54,814
花野井小学校	6,044	3年平均児童数(人)	259	511		32.4	58,027
十余二小学校	5,419	3年平均児童数(人)	505	511		27.9	70,819
柏の葉小学校	9,616	3年平均児童数(人)	334	511		3.1	58,821
田中中学校	7,239	3年平均生徒数(人)	466	499		35.6	84,473
田中保育園	862	3年平均園児数(人)	98	133		35.2	6,758
田中小こどもルーム	93	3年平均入所児童数(人)	54	42		14.5	4,610
十余二小こどもルーム	95	3年平均入所児童数(人)	53	42		13.6	3,425
花野井小こどもルーム	168	3年平均入所児童数(人)	44	42		6.5	2,677
柏の葉小こどもルーム第一・二 保育室	344	3年平均入所児童数(人)	40	42		3.1	8,429
西部消防署大室分署	625	3年平均出動件数(件)	1,399	2,106		34.3	2,461
西部消防署たなか分署	885	3年平均出動件数(件)	1,379	2,106		0.4	197,773
旭町消防署西原分署	800	3年平均出動件数(件)	1,419	2,106		24.3	198,195
柏市消防団第1方面第1分団器 具置場	96	保有面積(㎡)	96	75		9.1	
柏市消防団第1方面第2分団器 具置場	111	保有面積(㎡)	111	75		4.4	
柏市消防団第1方面第3分団器 具置場	58	保有面積(㎡)	58	75		24.3	
柏市消防団第1方面第5分団器 具置場	105	保有面積(㎡)	105	75		7.1	
合計	46,549				平均	23.1	

※消防署の利用量については、西部消防署たなか分署は単年度値にて、西部消防署大室分署は2か年度平均値にて算出しております。

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 42,076 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 70,201 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 66.8%の増加、また、2040 年の高齢化率は 27.6%となっています。
- ・将来人口予測では、生産年齢人口及び老年人口が大きく増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直し等が必要となります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.45 m²の減少となっており、現在の保有水準よりも減少するため、人口増加に合わせた施設配置の見直し等が必要となります。

表 16 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（田中地区）



5-3-3 富勢地区

①地区の概況

- ・富勢地区は、本市の北東部に位置し、地区の中央部が南北に丘陵地となっており、古くからの住宅地が残る地域です。
- ・地区の北部は、農地や森林等が多く残る地域となっています。
- ・地区の南部は、北柏駅が立地し、周辺が住宅地となっています。
- ・北柏駅北口では、土地区画整理事業が進められており、駅前広場をはじめとする都市基盤の整備と、良質な宅地造成が行われる予定です。

②まちづくりの課題

- ・北柏駅北口での土地区画整理事業を早期に実現し、地区住民の生活利便性向上を図るとともに、北部での自然環境保全や、地区内に位置するあけぼの山農業公園等へのアクセス性確保が課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に20施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は6,329㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.30㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は30.0年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・図書館布施分館の年間貸出冊数は、市内平均の半分以下で、今後のサービスのあり方について検討を図る必要があります。
- ・富勢東小学校及び富勢西小学校は、市内平均と比べて児童数が少なく、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中でも、児童数が伸びないことが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境のあり方について検討を行う必要があります。

表 17 地域対応施設保有量等の状況（富勢地区）

【平成26年度末現在】	富勢地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	24,643	01集会施設	01近隣センター	3	2,329
地区面積(k㎡)	5.1		02自治会館等	1	282
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	6,329	01図書館	01図書館	2	314
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	1.30	01学校	01小学校	3	17,138
			02中学校	1	7,875
		01保育園	01保育園	2	2,280
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	4	391
			01消防庁舎	1	1,206
		02消防施設	02消防団器具置場	3	146
			合計	20	31,960

■ 01近隣センター
 ■ 02自治会館等
 ■ 01図書館
 ■ 01小学校
 ■ 02中学校
 ■ 01保育園
 ■ 02こどもルーム
 ■ 01消防庁舎
 ■ 02消防団器具置場

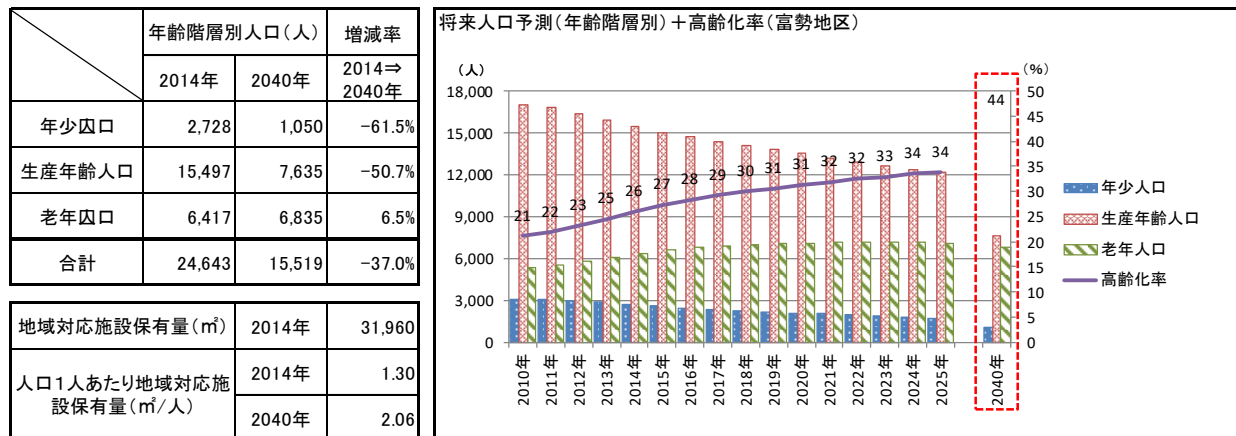
表 18 地域対応施設利用量等の概要（富勢地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均				
布施近隣センター	1,031	3年平均利用者数(人)	22,507	34,670	37.7%	35.0	17,875
根戸近隣センター	881	3年平均利用者数(人)	18,556	34,670	29.5%	37.9	8,683
根戸近隣センター体育室(館)	417	3年平均利用者数(人)	28,359	21,822	56.4%	37.9	1,158
前原会館	282					31.0	
図書館布施分館	196	3年平均年間貸出冊数(冊)	51,195	117,010		35.0	4,490
図書館根戸分館	118	3年平均年間貸出冊数(冊)	71,160	117,010		37.9	4,298
富勢小学校	5,889	3年平均児童数(人)	796	511		40.7	86,705
富勢東小学校	5,338	3年平均児童数(人)	116	511		35.9	63,663
富勢西小学校	5,912	3年平均児童数(人)	226	511		32.0	52,675
富勢中学校	7,875	3年平均生徒数(人)	632	499		36.8	98,889
富勢保育園	1,199	3年平均園児数(人)	141	133		16.6	7,144
高野台保育園	1,081	3年平均園児数(人)	138	133		34.1	7,981
富勢こどもルーム	92	3年平均入所児童数(人)	46	42		22.1	3,356
富勢こどもルーム第二保育室	51	3年平均入所児童数(人)	33	42		6.8	3,333
富勢西小こどもルーム	129	3年平均入所児童数(人)	18	42		32.0	3,732
富勢東小こどもルーム	120	3年平均入所児童数(人)	12	42		35.9	3,131
西部消防署富勢分署	1,206	3年平均出動件数(件)	1,817	2,106		5.8	198,279
柏市消防団第1方面第6分団器具置場	47	保有面積(㎡)	47	75		27.9	
柏市消防団第1方面第7分団器具置場	58	保有面積(㎡)	58	75		26.0	
柏市消防団第1方面第8分団器具置場	41	保有面積(㎡)	41	75		32.0	
合計	31,960				平均	30.0	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014 年現在 24,643 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 15,519 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 37.0%の減少、また、2040 年の高齢化率は 44.0%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が半数以下に減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.76 m²の増加となっており、現在の保有水準よりも増加するため、人口構成に合わせた施設機能の再編や、総量の縮減等が必要となります。

表 19 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（富勢地区）



5-3-4 松葉町地区

①地区の概況

- ・松葉町地区は、日本住宅公団（現：独立行政法人都市再生機構）によりニュータウンとして整備された地域です。
- ・戸建住宅と集合住宅が計画的に配置され、小中学校や近隣公園が整備されるとともに、商業施設等も立地しています。
- ・地区内に鉄道駅はありませんが、柏の葉キャンパス駅と北柏駅から2系統のバス路線が引かれ、区域内を周回しています。

②まちづくりの課題

- ・地区内での市街地開発事業等の予定はなく、地区住民からは、地域を流れる地金堀水路の親水化等の要望があり、既存の住環境をいかにして向上させていくかが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に12施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は23,477㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は2.34㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は24.8年で、30年を老朽化の基準とすると、やや老朽化している状況にあります。
- ・一部の施設を除き、ほとんどの施設で市内平均よりも利用量が多い状況にあります。

表 20 地域対応施設保有量等の状況（松葉町地区）

【平成26年度末現在】	松葉町地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	11,830	01集会施設	01近隣センター	2	1,295	
地区面積(k㎡)	1.2		02自治会館等			
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	23,477	01図書館	01図書館	1	205	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	2.34	01学校	01小学校	2	12,605	
			02中学校	1	7,858	
01近隣センター 01図書館 01小学校 02中学校 01保育園 02こどもルーム 01消防庁舎		01保育園	01保育園	1	1,323	
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	317	
		02消防施設	01消防庁舎	2	4,101	
			02消防団器具置場			
		合計			12	27,703

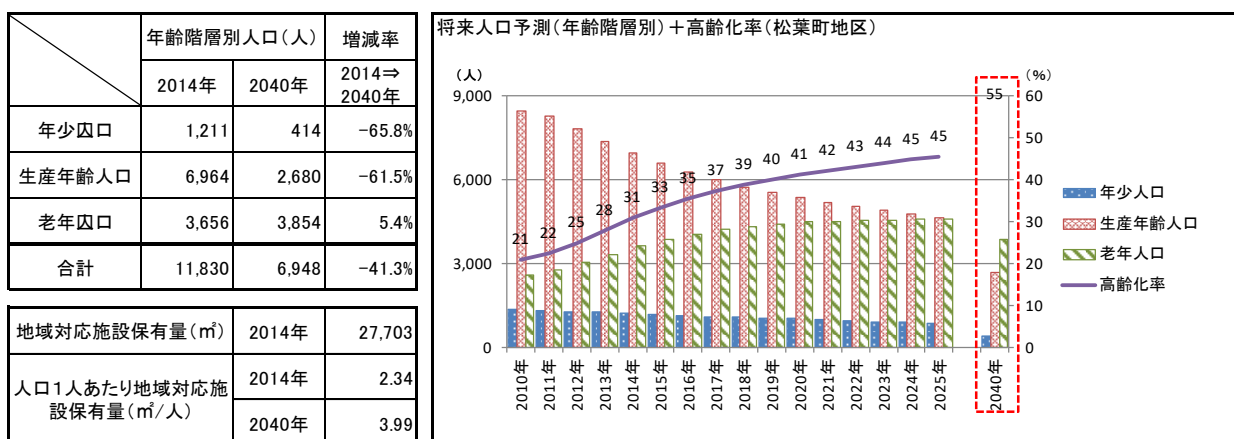
表 21 地域対応施設利用量等の概要（松葉町地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)		利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均			
松葉近隣センター	879	3年平均利用者数(人)	60,848	34,670	55.7%	27.6
松葉近隣センター体育室(館)	416	3年平均利用者数(人)	25,927	21,822	69.9%	27.6
図書館松葉分館	205	3年平均年間貸出冊数(冊)	179,837	117,010		27.6
松葉第一小学校	6,400	3年平均児童数(人)	513	511		33.2
松葉第二小学校	6,205	3年平均児童数(人)	669	511		31.9
松葉中学校	7,858	3年平均生徒数(人)	631	499		30.2
松葉保育園	1,323	3年平均園児数(人)	159	133		31.7
松葉二小こどもルーム	94	3年平均入所児童数(人)	54	42		15.5
松葉二小こどもルーム第二保育室	53	3年平均入所児童数(人)	26	42		9.5
松葉一小こどもルーム	170	3年平均入所児童数(人)	52	42		8.5
消防局・西部消防署	3,575	3年平均出動件数(件)	2,695	2,106		35.7
消防指令センター	526	119番等受信件数(件)	24,943	24,943		18.1
合計	27,703			平均		24.8

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 11,830 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 6,948 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 41.3%の減少、また、2040 年の高齢化率は 55.5%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が半数以下に減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 1.65 ㎡の増加となっており、現在の保有水準よりも大幅に増加するため、人口構成に合わせた積極的な施設機能の再編や見直し、総量の縮減等が必要となります。

表 22 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（松葉町地区）



5-3-5 高田・松ヶ崎地区

①地区の概況

- ・高田・松ヶ崎地区は、国道16号を挟んで東西に長い地域です。
- ・地区の西部は、緑地や農地等の自然環境と工場や、住宅地が混在する土地利用となっています。
- ・地区の東部は、西部に比べて住宅地としての土地利用が多くなっています。
- ・地区の南部は、南端の境界線が大堀川となっており、特に大堀川周辺に森林や農地がまとまって残っています。
- ・国道16号沿いには、沿道型の商業施設等が立地しており、広域集客を主とする大型店が数多く集積しています。

②まちづくりの課題

- ・自然的な環境を有効に残しつつ、計画的に市街化を図ること、また、国道16号沿道の施設誘導を計画的に行うことが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に11施設あります。
- ・地区面積1km²あたり地域対応施設保有量は5,013m²/km²（全地区平均8,166m²/km²）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.10m²/人（全地区平均1.26m²/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は27.3年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。

表 23 地域対応施設保有量等の状況（高田・松ヶ崎地区）

【平成26年度末現在】	高田・松ヶ崎地区	中分類	小分類	施設数	延床面積（㎡）	
地区人口（人）	18,616	01集会施設	01近隣センター	2	1,109	
地区面積（km ² ）	4.1		02自治会館等			
面積1km ² あたり地域対応施設保有量（㎡/km ² ）	5,013	01図書館	01図書館	1	137	
人口1人あたり地域対応施設保有量（㎡/人）	1.10	01学校	01小学校	2	11,586	
01近隣センター 01図書館 01小学校 02中学校 02こどもルーム 02消防団器具置場			02中学校	1	7,123	
		01保育園	01保育園			
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	339	
		02消防施設	01消防庁舎			
			02消防団器具置場	2	159	
		合計			11	20,452

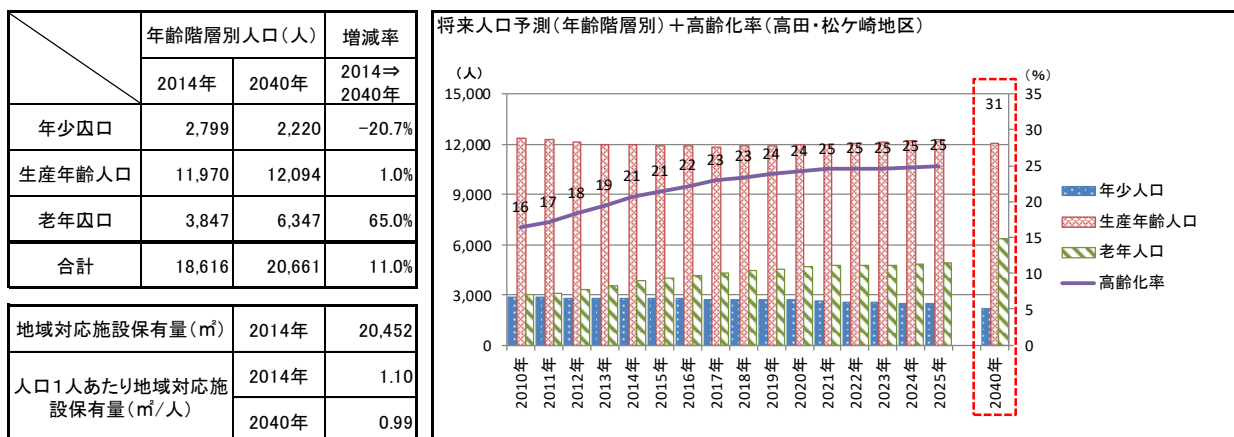
表 24 地域対応施設利用量等の概要（高田・松ヶ崎地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)		利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均			
高田近隣センター	740	3年平均利用者数(人)	18,667	34.670	28.9	13,690
高田近隣センター体育室(館)	369	3年平均利用者数(人)	18,246	21.822	28.9	2,474
図書館高田分館	137	3年平均年間貸出冊数(冊)	76,593	117,010	28.9	4,337
柏第四小学校	6,444	3年平均児童数(人)	723	511	32.2	75,990
高田小学校	5,142	3年平均児童数(人)	581	511	37.2	99,183
柏第五中学校	7,123	3年平均生徒数(人)	489	499	33.3	80,749
柏四小こどもルーム	92	3年平均入所児童数(人)	35	42	14.5	2,731
柏四小こどもルーム第二保育室	61	3年平均入所児童数(人)	22	42	3.1	4,112
高田小こどもルーム	186	3年平均入所児童数(人)	60	42	37.2	6,243
柏市消防団第2方面第3分団器具置場	40	保有面積(㎡)	40	75	38.1	
柏市消防団第2方面第4分団器具置場	119	保有面積(㎡)	119	75	18.3	
合計	20,452			平均	27.3	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在18,616人（全地区平均20,491人）、2040年予測で20,661人（全地区平均20,262人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると11.0%の増加、また、2040年の高齢化率は30.7%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口が減少し、老年人口が大きく増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約0.11㎡の減少となっており、現在の保有水準は概ね維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 25 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（高田・松ヶ崎地区）



5-3-6 豊四季台地区

①地区の概況

- ・豊四季台地区は、本市の中央部に位置し、柏駅西口近辺から流山市との市境までの間の、南東から北西にかけて長い地域となっています。
- ・柏駅西口近辺は、中高層建築物が立ち並び、その外側に住宅地が広がり、さらには住宅と農地、森林等が続く自然環境が混在した地区が広がっています。
- ・特に、大堀川沿いに農地や森林が多く残り、その北東部では、柏駅周辺の大規模火災対策として、（仮称）篠籠田防災公園の整備が進められています。
- ・地区中央部には、豊四季台団地が立地し、集合住宅群を形成しています。1964 年に入居開始の大規模団地で、現在は一部で建替えが進んでいます。
- ・豊四季台団地は、地域包括ケアシステムのモデル拠点整備が進められており、高齢社会における在宅医療の推進及び生きがい就労の創生の取組が進められています。

②まちづくりの課題

- ・地区東部に住む古くからの住民のための住環境整備や、西部での自然環境を生かした計画的な市街化、また、地区内の移動性確保のための交通整備が課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に 15 施設あります。
- ・地区面積 1 km^2 あたり地域対応施設保有量は $14,944 \text{ m}^2/\text{km}^2$ （全地区平均 $8,166 \text{ m}^2/\text{km}^2$ ）で、地区人口 1 人あたり地域対応施設保有量は $1.38 \text{ m}^2/\text{人}$ （全地区平均 $1.26 \text{ m}^2/\text{人}$ ）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は 32.4 年で、30 年を老朽化の基準とすると、著しく老朽化している状況にあります。
- ・柏第三中学校は、市内平均と比べて生徒数が少ないものの、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中では、将来的に学校規模は適正となることが予測されています。
- ・豊四季保育園は、施設の老朽化が進んでいるため、豊四季台団地の建替えと合わせて、将来的なあり方について検討を行う必要があります。

表 26 地域対応施設保有量等の状況（豊四季台地区）

【平成26年度末現在】	豊四季台地区	中分類	小分類	施設数	延床面積(m ²)
地区人口(人)	30,301	01集会施設	01近隣センター	2	2,013
地区面積(km ²)	2.8		02自治会館等		
面積1km ² あたり地域対応施設保有量(m ² /km ²)	14,944	01図書館	01図書館	1	199
人口1人あたり地域対応施設保有量(m ² /人)	1.38	01学校	01小学校	2	12,057
			02中学校	2	22,804
		01保育園	01保育園	4	3,567
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	2	225
		02消防施設	01消防庁舎	1	859
			02消防団器具置場	1	120
		合計		15	41,843

■ 01近隣センター
 ■ 01図書館
 ■ 01小学校
 ■ 02中学校
 ■ 01保育園
 ■ 02こどもルーム
 ■ 01消防庁舎
 ■ 02消防団器具置場

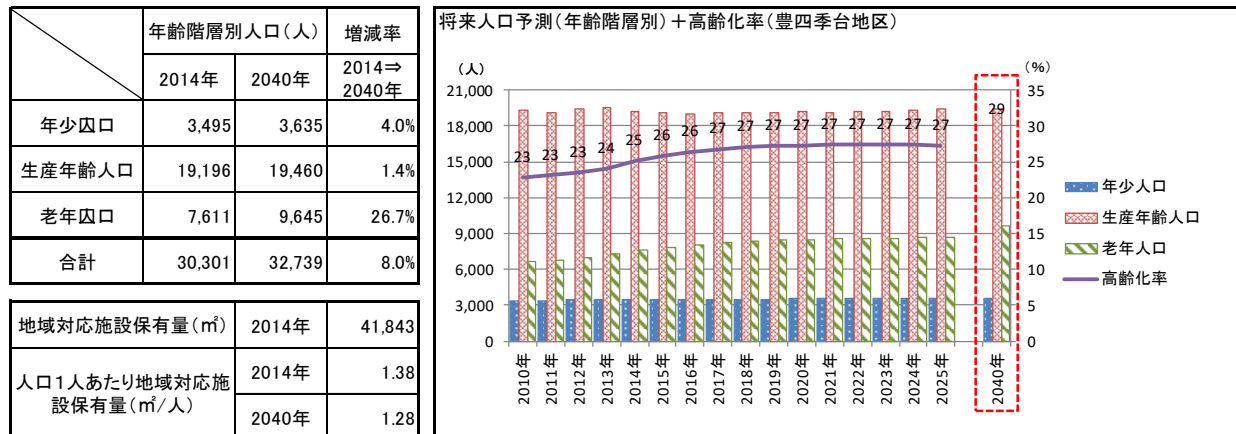
表 27 地域対応施設利用量等の概要（豊四季台地区）

施設名称	延床面積(m ²)	利用量(H24～H26)			利用率(%)	経過年数(年)	市負担額(千円)
			市内平均				
豊四季台近隣センター	1,001	3年平均利用者数(人)	47,114	34,670	48.6%	32.8	19,673
豊四季台近隣センター体育館	1,012	3年平均利用者数(人)	26,066	21,822	56.4%	18.1	6,930
図書館豊四季台分館	199	3年平均年間貸出冊数(冊)	150,811	117,010		49.9	16,957
柏第六小学校	5,776	3年平均児童数(人)	209	511		46.9	85,755
柏第七小学校	6,281	3年平均児童数(人)	592	511		43.2	111,787
柏中学校	14,928	3年平均生徒数(人)	586	499		12.9	98,705
柏第三中学校	7,876	3年平均生徒数(人)	340	499		34.0	83,436
あけぼの保育園	591	3年平均園児数(人)	88	133		42.7	5,601
豊四季保育園	889	3年平均園児数(人)	124	133		47.7	7,495
豊四季乳児保育園	983	3年平均園児数(人)	110	133		38.6	8,336
しこだ保育園	1,104	3年平均園児数(人)	141	133		34.0	8,280
柏六小こどもルーム	103	3年平均入所児童数(人)	27	42		3.1	5,759
柏七小こどもルーム	122	3年平均入所児童数(人)	65	42		43.2	5,131
旭町消防署	859	3年平均出動件数(件)	3,056	2,106		26.1	357,414
柏市消防団第2方面第5分団器具置場	120	保有面積(m ²)	120	75		13.3	
合計	41,843				平均	32.4	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 30,301 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 32,739 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 8.0%の増加、また、2040 年の高齢化率は 29.5%となっています。
- ・将来人口予測では、老年人口の増加が予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直し等が必要となります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.10 m²の減少となっており、現在の保有水準は概ね維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 28 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（豊四季台地区）



5-3-7 新富地区

①地区の概況

- ・新富地区は、本市西部に位置し、南は南柏駅西口から、北は豊四季駅、流山市駒木諏訪神社まで至る地域です。
- ・南柏駅周辺では、商業施設等が多く立地していますが、その他の地域においては、農地や森林等が多く残る自然豊かで閑静な住宅地となっています。
- ・特に地区の中央部では、駅から離れていることもあり、農地や森林等が数多く残っています。
- ・豊四季駅南口周辺は、流山市と本市側双方に商業施設が立地しています。
- ・また、地区の西部や北西部も、流山市に入り込むような地区形状となっており、流山市との関係性が深い地域でもあります。

②まちづくりの課題

- ・流山市との連携を図りつつ、地域の自然環境を残した計画的な市街化を図ることが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に9施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は5,178㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.75㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は26.1年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・一部の施設を除き、ほとんどの施設で市内平均よりも利用量が多いか、又はそれに近い状況にあります。

表 29 地域対応施設保有量等の状況（新富地区）

【平成26年度末現在】	新富地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	21,593	01集会施設	01近隣センター	1	982	
地区面積(k㎡)	3.1		02自治会館等			
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	5,178	01図書館	01図書館	1	165	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.75	01学校	01小学校	1	6,417	
			02中学校	1	7,361	
			01保育園	1	931	
			02幼児・児童施設	02こどもルーム	2	132
			02消防施設	01消防庁舎		
				02消防団器具置場	2	116
			合計		9	16,104

0.8% 0.7% 6.1% 1.0% 5.8%

- 01近隣センター
- 01図書館
- 01小学校
- 02中学校
- 01保育園
- 02こどもルーム
- 02消防団器具置場

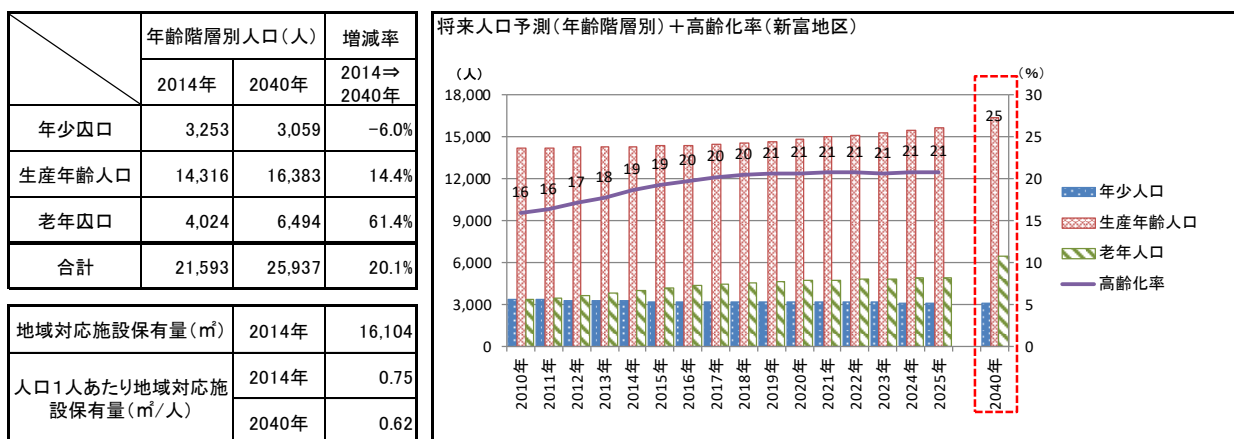
表 30 地域対応施設利用量等の概要（新富地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
				市内平均			
新富近隣センター	982	3年平均利用者数(人)	41,146	34,670	44.6%	30.7	26,088
図書館新富分館	165	3年平均年間貸出冊数(冊)	100,944	117,010		30.7	5,027
柏第二小学校	6,417	3年平均児童数(人)	748	511		40.0	78,375
豊四季中学校	7,361	3年平均生徒数(人)	664	499		24.1	88,362
富士見保育園	931	3年平均園児数(人)	134	133		34.1	7,766
柏二小こどもルーム	92	3年平均入所児童数(人)	41	42		15.5	3,068
柏二小こどもルーム第二保育室	40	3年平均入所児童数(人)	19	42		10.8	3,120
柏市消防団第2方面第7分団器具置場	58	保有面積(㎡)	58	75		24.0	
柏市消防団第2方面第9分団器具置場	58	保有面積(㎡)	58	75		25.1	
合計	16,104				平均	26.1	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在21,593人（全地区平均20,491人）、2040年予測で25,937人（全地区平均20,262人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると20.1%の増加、また、2040年の高齢化率は25.0%となっています。
- ・将来人口予測では、生産年齢人口及び老年人口が増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直し等が必要となります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約0.13㎡の減少となっており、現在の保有水準は概ね維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 31 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（新富地区）



5-3-8 旭町地区

①地区の概要

- ・旭町地区は、本市の中央部に位置し、柏駅東口の一部を含み、柏駅西口から西側に広がる地域です。
- ・柏駅周辺には、大規模小売店舗や商店街、業務施設等が立地し、本市の中心となる商業・業務地となっています。
- ・地区の中央部には、南北に国道6号が通り、JR常磐線や東武アーバンパークラインも位置し、交通騒音や大気汚染、地域分断の要因ともなっています。
- ・国道6号から西側は、県立東葛飾高校や気象大学校等の学校が立地し、新旧戸建住宅やアパート、低層マンション等が混在する住宅地となっています。
- ・また、国道6号沿いには、沿道型店舗や、マンションをはじめとする中高層住宅等が立ち並んでいます。

②まちづくりの課題

- ・柏駅周辺の一部として、広域的な拠点地区を形成するための機能立地について促進を図ること、周辺部での良好な住環境を整備すること、また、交通施設による地域分断に対処していくことが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に9施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は11,235㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.06㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は24.4年で、30年を老朽化の基準とすると、やや老朽化している状況にあります。
- ・一部の施設を除き、おおむね市内平均よりも利用量が多いか、又はそれに近い状況にあります。

表 32 地域対応施設保有量等の状況（旭町地区）

【平成26年度末現在】	旭町地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	12,227	01集会施設	01近隣センター	2	1,364
地区面積(k㎡)	1.2		02自治会館等		
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	11,235	01図書館	01図書館		
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	1.06	01学校	01小学校	2	10,159
			02中学校		
		01保育園	01保育園	1	1,037
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	287
		02消防施設	01消防庁舎		
			02消防団器具置場	1	74
		合計		9	12,921

■ 01近隣センター
 ■ 01小学校
 ■ 01保育園
 ■ 02こどもルーム
 ■ 02消防団器具置場

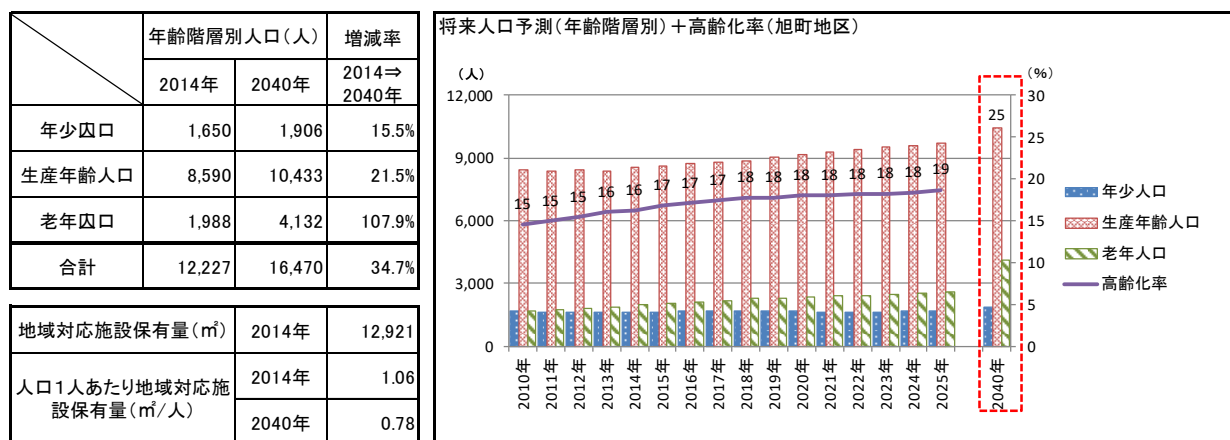
表 33 地域対応施設利用量等の概要（旭町地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
				市内平均			
旭町近隣センター	947	3年平均利用者数(人)	34,888	34,670	47.6%	19.5	13,482
旭町近隣センター体育室(館)	417	3年平均利用者数(人)	18,481	21,822	75.7%	19.5	1,991
旭小学校	5,779	3年平均児童数(人)	601	511		39.3	74,566
旭東小学校	4,380	3年平均児童数(人)	319	511		33.9	62,755
旭町保育園	1,037	3年平均園児数(人)	134	133		35.1	7,692
旭小こどもルーム	91	3年平均入所児童数(人)	45	42		22.3	3,450
旭小こどもルーム第二保育室	56	3年平均入所児童数(人)	23	42		7.6	4,214
旭東小こどもルーム	140	3年平均入所児童数(人)	49	42		5.5	6,887
柏市消防団第2方面第10分団 器具置場	74	保有面積(㎡)	74	75		37.2	
合計	12,921				平均	24.4	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在12,227人（全地区平均20,491人）、2040年予測で16,470人（全地区平均20,262人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると34.7%の増加、また、2040年の高齢化率は25.1%となっています。
- ・将来人口予測では、生産年齢人口及び老年人口が大きく増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直し等が必要となります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約0.28㎡の減少となっており、現在の保有水準よりも減少するため、人口増加に合わせた施設配置の見直し等が必要となります。

表 34 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（旭町地区）



5-3-9 柏中央地区

①地区の概況

- ・柏中央地区は、柏駅から東側に広がる地域です。
- ・柏駅周辺は、大規模小売店舗や商店街、銀行、事務所、ホテル等が立地し、複合的な土地利用となっています。
- ・また、その外側は、高層マンションや戸建住宅が立ち並ぶ住宅地となっています。
- ・地区の東部や南東部は、大堀川・大津川流域及び手賀沼周辺に低地が広がっており、農地や公園、緑地といった自然環境が残っています。
- ・地区の北東部、J R常磐線南側には、東京慈恵会医科大学附属柏病院を中心に大規模な医療機関が立地し、救急救命の拠点となっています。

②まちづくりの課題

- ・本市の中心部としての複合的な機能立地について誘導を図ること、広域からのアクセス性を確保すること、また、周辺住宅地での住環境整備や保全を図ることが課題となっています。

③公共施設の状況

- ・地域対応施設は、地区内に10施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は6,103㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.77㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は24.7年で、30年を老朽化の基準とすると、やや老朽化している状況にあります。
- ・一部の施設を除き、ほとんどの施設で市内平均よりも利用量が多い状況にあります。

表 35 地域対応施設保有量等の状況（柏中央地区）

【平成26年度末現在】	柏中央地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	25,876	01集会施設	01近隣センター	1	1,811	
地区面積(k㎡)	3.3		02自治会館等			
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	6,103	01図書館	01図書館	1	2,269	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.77	01学校	01小学校	2	13,880	
01近隣センター 01図書館 01小学校 01保育園 02こどもルーム 02消防団器具置場			02中学校			
		01保育園	01保育園	1	1,397	
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	500	
		02消防施設	01消防庁舎			
			02消防団器具置場	2	163	
		合計			10	20,019

表 36 地域対応施設利用量等の概要（柏中央地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
				市内平均			
柏中央近隣センター	1,811	3年平均利用者数(人)	89,112	34,670	75.5%	16.4	30,324
図書館本館	2,269	3年平均年間貸出冊数(冊)	310,956	117,010		38.0	320,688
柏第一小学校	6,501	3年平均児童数(人)	790	511		44.5	79,590
柏第五小学校	7,380	3年平均児童数(人)	909	511		37.7	99,245
桜台保育園	1,397	3年平均園児数(人)	173	133		40.3	9,287
柏五小こどもルーム第一・三保育室	268	3年平均入所児童数(人)	81	42		3.1	10,285
柏五小こどもルーム第二保育室	59	3年平均入所児童数(人)	34	42		9.8	1,815
柏一小こどもルーム	172	3年平均入所児童数(人)	69	42		8.1	11,266
柏市消防団第2方面第2分団器具置場	41	保有面積(㎡)	41	75		34.0	
柏市消防団第2方面第6分団器具置場	122	保有面積(㎡)	122	75		15.2	
合計	20,019				平均	24.7	

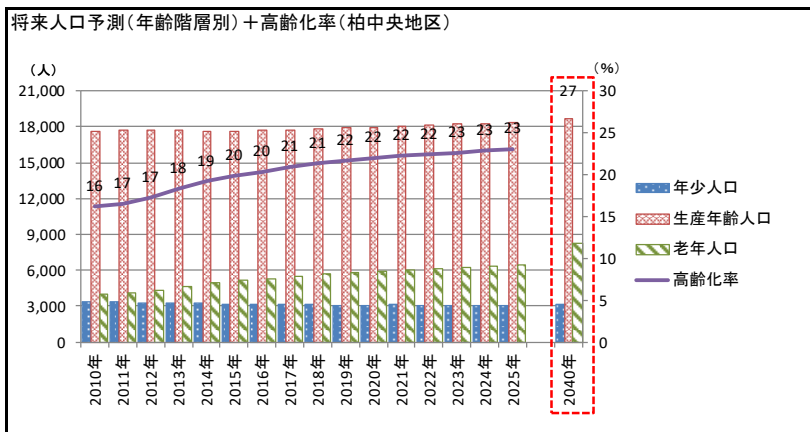
④人口の現状と見通し

- ・地区の人口は、2014年現在 25,876 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 30,193 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 16.7%の増加、また、2040 年の高齢化率は 27.5%となっています。
- ・将来人口予測では、老年人口が増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直し等が必要となります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.11 ㎡の減少となっており、現在の保有水準は概ね維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 37 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（柏中央地区）

	年齢階層別人口(人)		増減率 2014⇒ 2040年
	2014年	2040年	
年少人口	3,241	3,211	-0.9%
生産年齢人口	17,675	18,686	5.7%
老年人口	4,960	8,296	67.2%
合計	25,876	30,193	16.7%

地域対応施設保有量(㎡)	2014年	20,019
人口1人あたり地域対応施設保有量(㎡/人)	2014年	0.77
	2040年	0.66



5-3-10 富里地区

①地区の概要

- ・富里地区は、柏駅の東口から南柏駅近辺まで、県道松戸柏線（旧水戸街道）と、J R 常磐線の沿線を中心に形成される地域です。
- ・柏駅周辺は商業系の用途、南柏駅の近接地域では一部農地や森林等の用途がみられますが、概ね市街化され、主として住宅地で構成されています。
- ・J R 常磐線の北側には、大規模なショッピングモールが立地し、週末を中心に買い物客で賑わいをみせています。
- ・また、県道松戸柏線沿道には、柏駅周辺を起点として、大規模小売店舗や小規模店、飲食店等が立地しています。

②まちづくりの課題

- ・住宅地における居住環境向上に向けた公園等の整備や、交通渋滞等へ対応するための都市計画道路の整備促進、また、残存する農地や森林の保全・活用についての方針を決め、それに沿ったまちづくりを行っていくことが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に10施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は10,997㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.92㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は27.8年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・一部の施設を除き、おおむね市内平均よりも利用量が多いか、又はそれに近い状況にあります。

表 38 地域対応施設保有量等の状況（富里地区）

【平成26年度末現在】	富里地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	19,938	01集会施設	01近隣センター	1	599
地区面積(k㎡)	1.7		02自治会館等		
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	10,997	01図書館	01図書館		
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.92	01学校	01小学校	2	13,274
			02中学校		
		01保育園	01保育園	2	2,230
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	397
		02消防施設	01消防庁舎	1	1,717
			02消防団器具置場	1	39
		合計		10	18,256

0.2% 0.2% 3.3% 9.4% 12.2% 72.7%

- 01近隣センター
- 01小学校
- 01保育園
- 02こどもルーム
- 01消防庁舎
- 02消防団器具置場

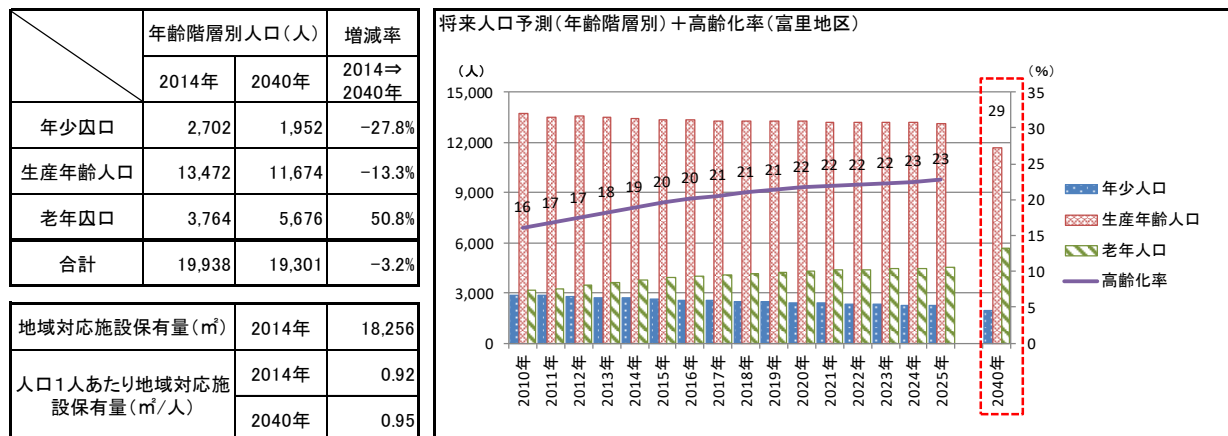
表 39 地域対応施設利用量等の概要（富里地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
				市内平均			
富里近隣センター	599	3年平均利用者数(人)	32,253	34,670	51.4%	33.0	15,165
柏第三小学校	7,991	3年平均児童数(人)	871	511		42.2	88,277
豊小学校	5,282	3年平均児童数(人)	649	511		34.8	101,862
若葉保育園	1,028	3年平均園児数(人)	126	133	43.1	7,241	10,375
豊町保育園	1,202	3年平均園児数(人)	163	133		37.0	
柏三小こどもルーム	159	3年平均入所児童数(人)	52	42		8.2	
柏三小こどもルーム第二保育室	74	3年平均入所児童数(人)	35	42	5.3	1,802	6,165
豊小こどもルーム	164	3年平均入所児童数(人)	61	42		9.5	
東部消防署	1,717	3年平均出動件数(件)	4,376	2,106		24.5	
柏市消防団第2方面第8分団器具置場	39	保有面積(㎡)	39	75	40.6		
合計	18,256						

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014 年現在 19,938 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 19,301 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 3.2%の減少、また、2040 年の高齢化率は 29.4%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口が減少し、老年人口が大きく増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.03 m²の増加となっており、現在の保有水準は維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 40 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（富里地区）



5-3-11 新田原地区

①地区の概況

- ・新田原地区は、概ね住宅地として市街化された地域です。
- ・地区の西部は、N T T社宅等の中層住宅と、戸建住宅が混在する地域となっており、地区の中央部及び東部は、概ね戸建住宅で構成されています。
- ・また、大津川の流域には農地が残っており、その高台には一部森林が残っています。

②まちづくりの課題

- ・既存住宅地内の幹線道路・生活道路・公園等の整備や、まち並みをはじめとした景観形成の質的向上が課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に6施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は8,809㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.77㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は27.8年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・図書館新田原分館の年間貸出冊数は、市内平均よりも下回り、今後のサービスのあり方について検討を行う必要があります。

表 41 地域対応施設保有量等の状況（新田原地区）

【平成26年度末現在】	新田原地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	14,370	01集会施設	01近隣センター	2	1,053
地区面積(k㎡)	1.3		02自治会館等		
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	8,809	01図書館	01図書館	1	110
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.77	01学校	01小学校		
01近隣センター 01図書館 02中学校 01保育園 02消防団器具置場			02中学校	1	8,659
			01保育園	01保育園	1
02幼児・児童施設			02こどもルーム		
02消防施設			01消防庁舎		
			02消防団器具置場	1	111
合計				6	11,011

表 42 地域対応施設利用量等の概要（新田原地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
				市内平均			
新田原近隣センター	653	3年平均利用者数(人)	32,551	34,670	37.8%	30.6	14,095
新田原近隣センター体育室 (館)	400	3年平均利用者数(人)	15,309	21,822	64.3%	30.6	3,983
図書館新田原分館	110	3年平均年間貸出冊数(冊)	67,260	117,010		30.6	4,277
柏第二中学校	8,659	3年平均生徒数(人)	765	499		35.8	88,738
東町保育園	1,079	3年平均園児数(人)	136	133		35.0	10,655
柏市消防団第2方面第1分団器 具置場	111	保有面積(㎡)	111	75		4.1	
合計	11,011				平均	27.8	

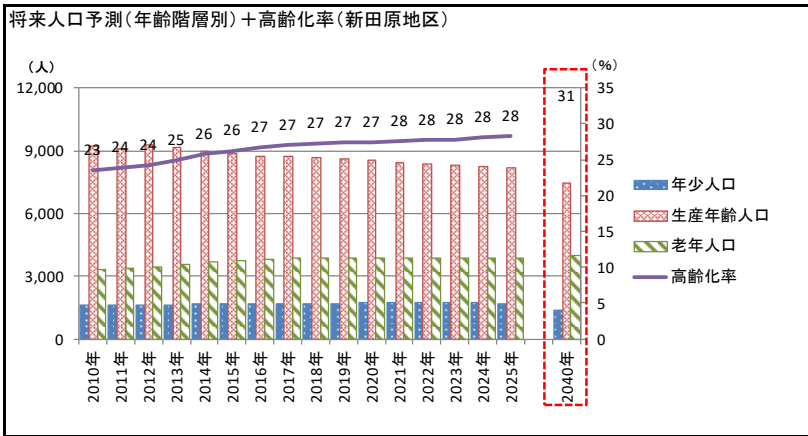
④人口の現状と見通し

- ・地区の人口は、2014年現在14,370人（全地区平均20,491人）、2040年予測で12,872人（全地区平均20,262人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると10.4%の減少、また、2040年の高齢化率は31.0%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約0.09㎡の増加となっており、現在の保有水準は維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 43 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（新田原地区）

	年齢階層別人口(人)		増減率 2014⇒ 2040年
	2014年	2040年	
年少人口	1,668	1,421	-14.8%
生産年齢人口	9,003	7,466	-17.1%
老年人口	3,698	3,985	7.8%
合計	14,370	12,872	-10.4%

地域対応施設保有量(㎡)	2014年	11,011
人口1人あたり地域対応施設保有量(㎡/人)	2014年	0.77
	2040年	0.86



5-3-12 永楽台地区

①地区の概況

- ・永楽台地区は、概ね戸建住宅地として市街化された地域です。
- ・地区の中央部には、日立柏サッカー場が設置されており、その周囲には広範囲で緑地が残っています。
- ・日立柏サッカー場は、J1リーグのサッカークラブチーム「柏レイソル」のホームスタジアムとなっており、試合のある日には周囲で賑わいをみせています。

②まちづくりの課題

- ・既存住宅地内の幹線道路・生活道路・公園等の整備や、まち並みをはじめとした景観形成の質的向上が課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に5施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は11,341㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.16㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は31.8年で、30年を老朽化の基準とすると、著しく老朽化している状況にあります。

表 44 地域対応施設保有量等の状況（永楽台地区）

【平成26年度末現在】	永楽台地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	11,782	01集会施設	01近隣センター	1	681	
地区面積(k㎡)	1.2		02自治会館等			
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	11,341	01図書館	01図書館	1	132	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	1.16	01学校	01小学校	1	6,006	
			02中学校	1	6,670	
0.9% 5.0% 1.0% 49.0% 44.1% 01近隣センター 01図書館 01小学校 02中学校 02こどもルーム		01保育園	01保育園			
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	1	120	
		02消防施設	01消防庁舎			
			02消防団器具置場			
		合計			5	13,609

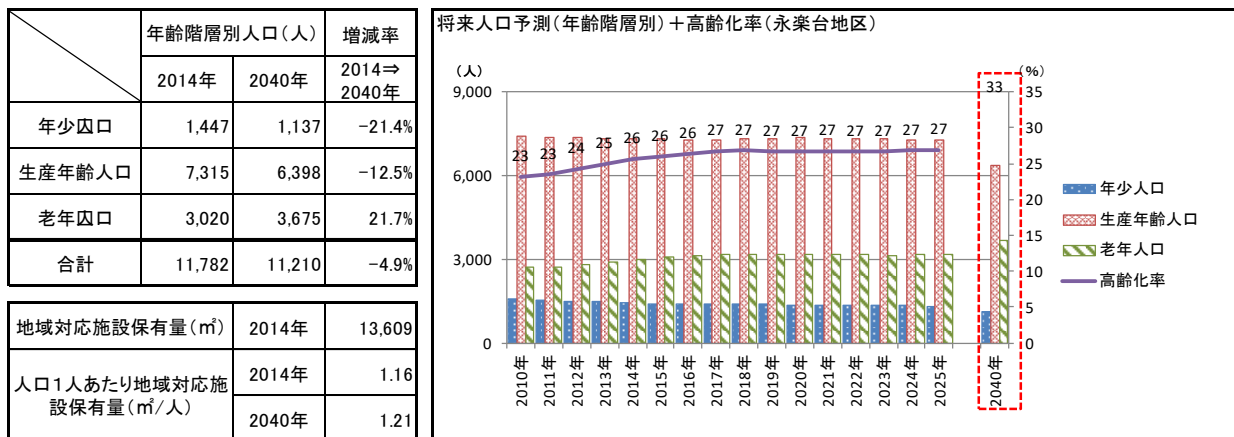
表 45 地域対応施設利用量等の概要（永楽台地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均				
永楽台近隣センター	681	3年平均利用者数(人)	28,949	34,670	53.9%	35.0	18,317
図書館永楽台分館	132	3年平均年間貸出冊数(冊)	121,525	117,010		35.0	5,524
柏第八小学校	6,006	3年平均児童数(人)	638	511		41.1	76,645
柏第四中学校	6,670	3年平均生徒数(人)	397	499		37.4	74,889
柏八小こどもルーム	120	3年平均入所児童数(人)	46	42		10.5	3,551
合計	13,609				平均	31.8	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 11,782 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 11,210 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 4.9%の減少、また、2040 年の高齢化率は 32.8%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口が増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.05 ㎡の増加となっており、現在の保有水準は維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 46 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（永楽台地区）



5-3-13 増尾地区

①地区の概要

- ・増尾地区は、本市の南東部に位置し、農地や森林等の自然環境が残る緑豊かな地域です。
- ・地区の西部、増尾駅西側は、戸建住宅を中心とした住宅地となっています。
- ・また、新柏駅東側は、駅周辺に集合住宅が立ち並び、その外側に学校等の公共施設が、さらには戸建住宅が続いています。
- ・地区の中央部や東部は、農地や森林等の自然環境やゴルフ場、戸建住宅等が混在し、東部の大津川流域では、大規模な農地が残っています。

②まちづくりの課題

- ・自然的環境の保全と、住環境の整備、地区内外の移動性を確保するための都市計画道路の整備促進が課題となっています。

③公共施設の状況

- ・地域対応施設は、地区内に17施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は9,301㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.87㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は29.7年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・名戸ヶ谷小学校は、市内平均と比べて児童数が少ないものの、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中では、将来的に学校規模は適正となることが予測されています。
- ・土中学校は、市内平均と比べて生徒数が少なく、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中でも、生徒数が伸びないことが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境のあり方について検討を行う必要があります。

表 47 地域対応施設保有量等の状況（増尾地区）

【平成26年度末現在】	増尾地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	21,878	01集会施設	01近隣センター	2	1,349
地区面積(k㎡)	4.4		02自治会館等		
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	9,301	01図書館	01図書館	1	168
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	1.87	01学校	01小学校	4	23,275
			02中学校	2	13,342
		01保育園	01保育園	2	1,962
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	4	503
		02消防施設	01消防庁舎		
			02消防団器具置場	2	230
		合計		17	40,829

■ 01近隣センター
 ■ 01図書館
 ■ 01小学校
 ■ 02中学校
 ■ 01保育園
 ■ 02こどもルーム
 ■ 02消防団器具置場

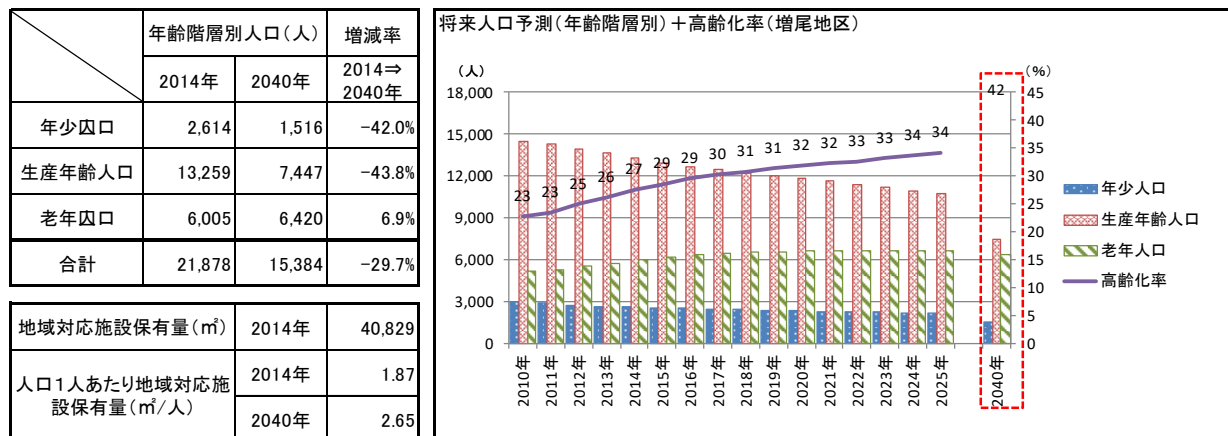
表 48 地域対応施設利用量等の概要（増尾地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
				市内平均			
増尾近隣センター	963	3年平均利用者数(人)	33,446	34,670	50.7%	34.1	19,835
増尾近隣センター体育室(館)	386	3年平均利用者数(人)	28,582	21,822	77.7%	34.1	782
図書館増尾分館	168	3年平均年間貸出冊数(冊)	116,669	117,010		34.1	4,901
土小学校	5,486	3年平均児童数(人)	383	511		40.6	63,526
中原小学校	6,372	3年平均児童数(人)	772	511		38.5	75,211
名戸ヶ谷小学校	5,044	3年平均児童数(人)	276	511		37.5	54,067
増尾西小学校	6,372	3年平均児童数(人)	573	511		36.4	98,870
土中学校	6,490	3年平均生徒数(人)	282	499		33.6	68,042
中原中学校	6,852	3年平均生徒数(人)	510	499		27.3	83,014
増尾保育園	913	3年平均園児数(人)	110	133		5.2	30,275
名戸ヶ谷保育園	1,049	3年平均園児数(人)	142	133		34.0	9,910
中原小こどもルーム	156	3年平均入所児童数(人)	67	42		8.2	8,712
増尾西小こどもルーム	121	3年平均入所児童数(人)	50	42		36.4	4,183
土小こどもルーム	114	3年平均入所児童数(人)	32	42		40.6	3,821
名戸ヶ谷小こどもルーム	111	3年平均入所児童数(人)	25	42		37.5	4,003
柏市消防団第3方面第2分団器具置場	120	保有面積(㎡)	120	75		16.3	
柏市消防団第3方面第5分団器具置場	111	保有面積(㎡)	111	75		11.1	
合計	40,829				平均	29.7	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014 年現在 21,878 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 15,384 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 29.7%の減少、また、2040 年の高齢化率は 41.7%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.78 m²の増加となっており、現在の保有水準よりも増加するため、人口構成に合わせた施設機能の再編や、総量の縮減等が必要となります。

表 49 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（増尾地区）



5-3-14 南部地区

①地区の概要

- ・南部地区は、地区の西部で宅地化が進んでいますが、東部を中心にまとまった農地や森林等が残る自然環境豊かな地域です。
- ・地区の北東部の柏リフレッシュ公園には、柏市第二清掃工場の余熱を利用したリフレッシュプラザ柏があり、年齢問わず誰でも楽しめることから、多くの市民に親しまれています。

②まちづくりの課題

- ・まとまった自然的環境を保全・活用しながら、住環境をいかに向上させていくかが課題となっています。
- ・また、地区が本市最南端に位置していることから、市中心部への移動性確保が要望されており、都市計画道路の整備促進や、公共交通機関の利便性向上等が課題となっています。

③公共施設の状況

- ・地域対応施設は、地区内に13施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は6,137㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.96㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は25.3年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・南部中学校は、現在学校規模は適正であるものの、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中では、将来的に学校規模は小規模となることが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境のあり方について検討を行う必要があります。

表 50 地域対応施設保有量等の状況（南部地区）

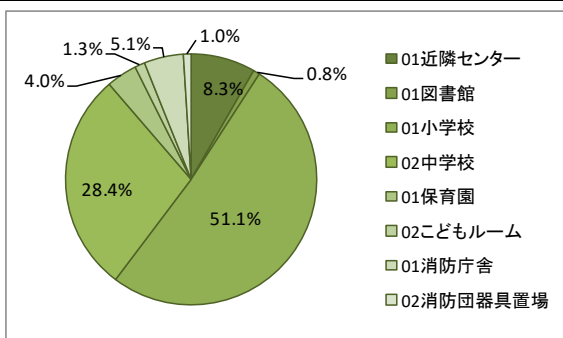
【平成26年度末現在】	南部地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	24,007	01集会施設	01近隣センター	2	1,922	
地区面積(k㎡)	3.8		02自治会館等			
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	6,137	01図書館	01図書館	1	191	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.96	01学校	01小学校	2	11,833	
			02中学校	1	6,574	
 01近隣センター 01図書館 01小学校 02中学校 01保育園 02こどもルーム 01消防庁舎 02消防団器具置場		01保育園	01保育園	1	915	
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	300	
		02消防施設	01消防庁舎	1	1,172	
			02消防団器具置場	2	230	
		合計			13	23,137

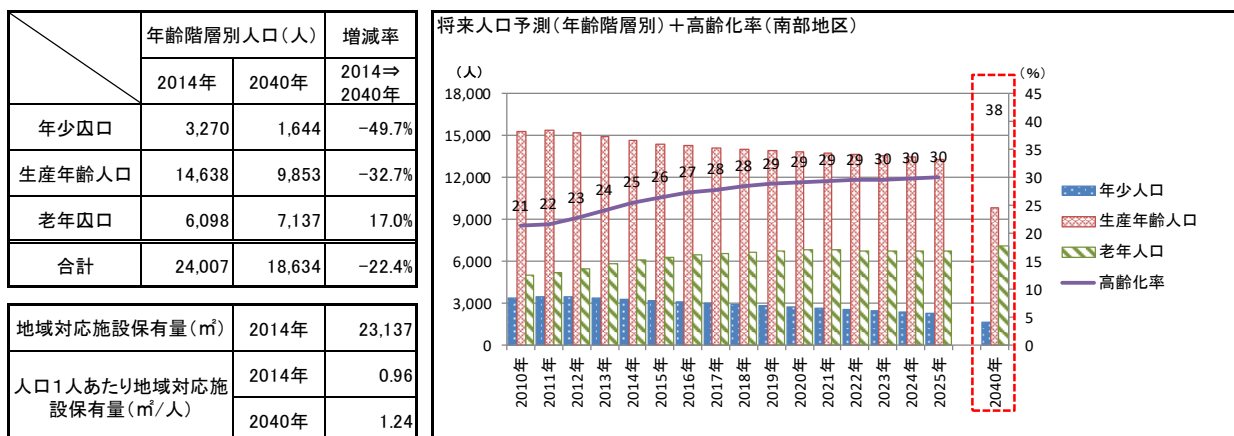
表 51 地域対応施設利用量等の概要（南部地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均				
南部近隣センター	1,124	3年平均利用者数(人)	39,381	34,670	36.6%	36.1	13,616
南部近隣センター体育館	798	3年平均利用者数(人)	32,532	21,822	46.7%	21.5	6,713
図書館南部分館	191	3年平均年間貸出冊数(冊)	99,892	117,010		36.1	5,136
土南部小学校	5,804	3年平均児童数(人)	733	511		41.6	80,582
逆井小学校	6,029	3年平均児童数(人)	412	511		36.5	78,315
南部中学校	6,574	3年平均生徒数(人)	407	499		35.5	80,901
土南部保育園	915	3年平均園児数(人)	140	133		37.0	9,087
土南部小こどもルーム	93	3年平均入所児童数(人)	42	42		17.5	3,788
土南部小こどもルーム第二保育室	69	3年平均入所児童数(人)	32	42		9.8	2,293
逆井小こどもルーム	137	3年平均入所児童数(人)	38	42		7.5	4,681
東部消防署逆井分署	1,172	3年平均出動件数(件)	2,144	2,106		20.0	208,214
柏市消防団第3方面第1分団器具置場	111	保有面積(㎡)	111	75		11.1	
柏市消防団第3方面第4分団器具置場	119	保有面積(㎡)	119	75		18.0	
合計	23,137				平均	25.3	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 24,007 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 18,634 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 22.4%の減少、また、2040 年の高齢化率は 38.3%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口が増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.28 ㎡の増加となっており、現在の保有水準よりも増加するため、人口構成に合わせた施設機能の再編や、総量の縮減等が必要となります。

表 52 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（南部地区）



5-3-15 藤心地区

①地区の概要

- ・藤心地区は、西部に形成された住宅市街地と、東部のまとまった農地や森林等の自然環境で構成される地域です。
- ・地区の西部は、逆井駅を中心に、戸建住宅を中心とした住宅地が形成されています。
- ・また、地区の東部は、大津川流域にまとまった農地が存在し、地区の南東部には、森林や農地、カタクリの群生地が残っています。

②まちづくりの課題

- ・まとまった自然環境が多く残る地域では、環境保全を主としたまちづくりが、一方で、住宅市街地化された地域では、良好な居住環境を形成するためのまちづくりが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に6施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は4,315㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.93㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は24.7年で、30年を老朽化の基準とすると、やや老朽化している状況にあります。

表 53 地域対応施設保有量等の状況（藤心地区）

【平成26年度末現在】	藤心地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	14,642	01集会施設	01近隣センター	1	784	
地区面積(k㎡)	3.1		02自治会館等			
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	4,315	01図書館	01図書館	1	147	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.93	01学校	01小学校	1	4,641	
			02中学校	1	7,771	
01近隣センター 01図書館 01小学校 02中学校 02こどもルーム 02消防団器具置場		01保育園	01保育園			
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	1	94	
		02消防施設	01消防庁舎			
			02消防団器具置場	1	111	
		合計			6	13,548

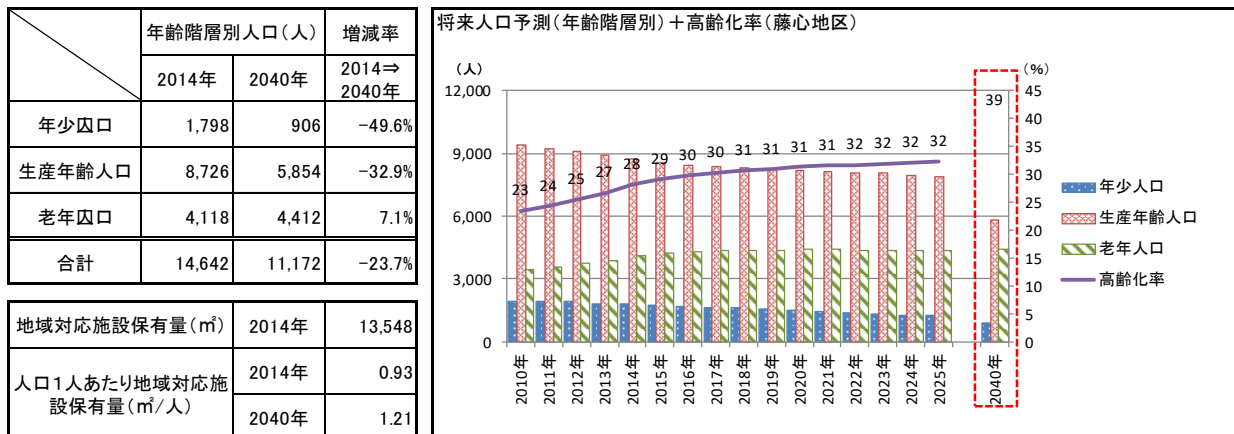
表 54 地域対応施設利用量等の概要（藤心地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)		利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均			
藤心近隣センター	784	3年平均利用者数(人)	48,285	34,670	44.9%	27.6
図書館藤心分館	147	3年平均年間貸出冊数(冊)	84,779	117,010		27.6
藤心小学校	4,641	3年平均児童数(人)	465	511		39.6
逆井中学校	7,771	3年平均生徒数(人)	546	499		31.7
藤心小こどもルーム	94	3年平均入所児童数(人)	39	42		16.5
柏市消防団第3方面第3分団器具置場	111	保有面積(㎡)	111	75		5.2
合計	13,548			平均	24.7	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 14,642 人（全地区平均 20,491 人）、2040年予測で 11,172 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると23.7%の減少、また、2040年の高齢化率は39.5%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約0.28㎡の増加となっており、現在の保有水準よりも増加するため、人口構成に合わせた施設機能の再編や、総量の縮減等が必要となります。

表 55 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（藤心地区）



5-3-16 光ケ丘地区

①地区の概要

- ・光ケ丘地区は、西部の廣池学園（麗澤大学）周辺で、一部農地や森林が残っていますが、概ね住宅地として市街化された地域です。
- ・地区の北部は、南柏駅を中心として、大規模小売店舗や飲食店、中高層マンション等が立地し、地区の中で最も賑わいをみせています。
- ・また、地区の西部は、キャンパスタウン色が強く、地区の中央部は、光ケ丘団地を中心とした集合住宅が多くみられ、人口の過密地域となっています。
- ・その他の地域については、概ね戸建住宅を中心とした住宅地となっています。

②まちづくりの課題

- ・住宅地内に残された自然環境を活かしながら、住環境の形成を図ることが課題となっています。

③公共施設の状況

- ・地域対応施設は、地区内に9施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は5,445㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は0.54㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は31.9年で、30年を老朽化の基準とすると、著しく老朽化している状況にあります。
- ・全ての施設で、市内平均よりも利用量が多い状況にあります。

表 56 地域対応施設保有量等の状況（光ケ丘地区）

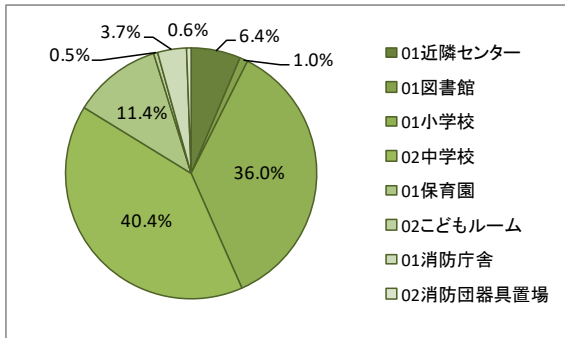
【平成26年度末現在】	光ヶ丘地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)		
地区人口(人)	33,421	01集会施設	01近隣センター	1	1,156		
地区面積(k㎡)	3.3		02自治会館等				
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	5,445	01図書館	01図書館	1	187		
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	0.54	01学校	01小学校	1	6,522		
			02中学校	1	7,325		
		01保育園	01保育園	2	2,067		
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	1	95		
		02消防施設	01消防庁舎	1	674		
			02消防団器具置場	1	106		
				合計		9	18,132

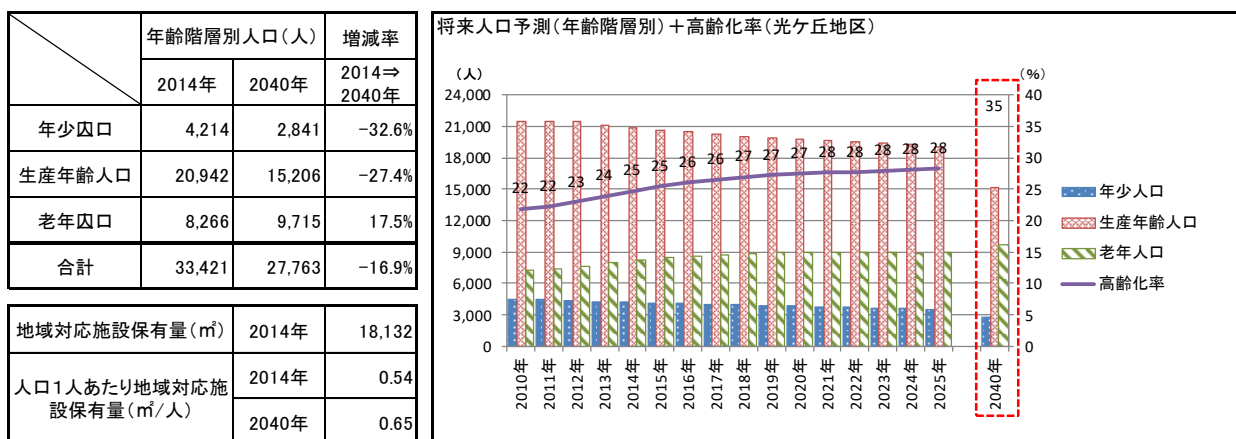
表 57 地域対応施設利用量等の概要（光ヶ丘地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)		利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均			
光ヶ丘近隣センター	1,156	3年平均利用者数(人)	56,032	34,670	60.6%	23,158
図書館光ヶ丘分館	187	3年平均年間貸出冊数(冊)	184,342	117,010		10,094
光ヶ丘小学校	6,522	3年平均児童数(人)	754	511		84,423
光ヶ丘中学校	7,325	3年平均生徒数(人)	606	499		81,657
東中新宿保育園	1,086	3年平均園児数(人)	139	133		8,353
豊住保育園	981	3年平均園児数(人)	135	133		7,812
光ヶ丘小こどもルーム	95	3年平均入所児童数(人)	62	42		5,441
東部消防署光ヶ丘分署	674	3年平均出動件数(件)	2,885	2,106		198,787
柏市消防団第3方面第6分団器具置場	106	保有面積(㎡)	106	75		
合計	18,132			平均	31.9	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 33,421 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 27,763 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 16.9%の減少、また、2040 年の高齢化率は 35.0%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口が増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.11 ㎡の増加となっており、現在の保有水準は概ね維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 58 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（光ヶ丘地区）



5-3-17 酒井根地区

①地区の概要

- ・酒井根地区は、地区の南北にまとまった農地や森林が多く残り、地区の東西に住宅地が形成されている比較的自然環境が豊かな地域です。
- ・地区の西部は、松戸市からつながる計画的な住宅地が形成されており、地区の東部は、増尾地区や光ケ丘地区からつながる住宅地となっています。
- ・また、地区の北部では、酒井根下田の森を中心に多くの森林が残り、地区の南部では、農地がまとまって存在しています。

②まちづくりの課題

- ・まとまった自然環境が多く残る地域では、環境保全を主としたまちづくりが、一方で、住宅市街地化された地域では、良好な居住環境を形成するためのまちづくりが課題となっています。

③公共施設の状況

- ・地域対応施設は、地区内に 11 施設あります。
- ・地区面積 1 k m²あたり地域対応施設保有量は 15,134 m²/k m²（全地区平均 8,166 m²/k m²）で、地区人口 1 人あたり地域対応施設保有量は 2.22 m²/人（全地区平均 1.26 m²/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は 27.2 年で、30 年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・一部の施設を除き、ほとんどの施設で市内平均よりも利用量が多いか、又はそれに近い状況にあります。

表 59 地域対応施設保有量等の状況（酒井根地区）

【平成26年度末現在】	酒井根地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	12,671	01集会施設	01近隣センター	2	1,146
地区面積(k㎡)	1.9		02自治会館等		
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	15,134	01図書館	01図書館		
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	2.22	01学校	01小学校	3	16,708
			02中学校	1	8,141
		01保育園	01保育園	1	1,786
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	3	307
		02消防施設	01消防庁舎		
			02消防団器具置場	1	62
		合計		11	28,150

■ 01近隣センター
 ■ 01小学校
 ■ 02中学校
 ■ 01保育園
 ■ 02こどもルーム
 ■ 02消防団器具置場

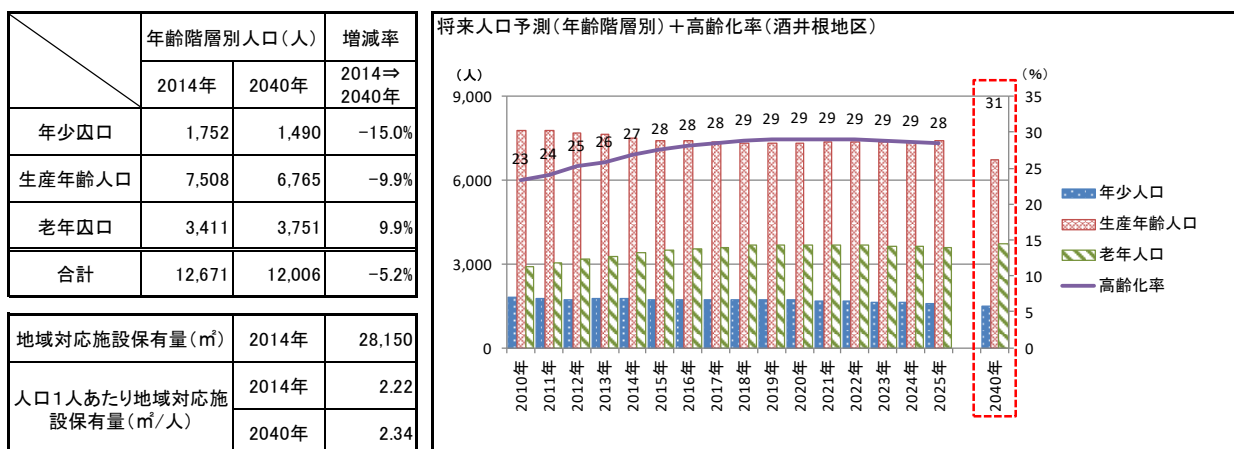
表 60 地域対応施設利用量等の概要（酒井根地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
		3年平均利用者数(人)	市内平均				
酒井根近隣センター	755	3年平均利用者数(人)	24,960	34,670	41.5%	25.0	13,456
酒井根近隣センター体育室 (館)	391	3年平均利用者数(人)	24,956	21,822	72.8%	25.0	3,547
酒井根小学校	5,843	3年平均児童数(人)	597	511		42.1	66,541
酒井根西小学校	5,184	3年平均児童数(人)	304	511		38.2	72,409
酒井根東小学校	5,681	3年平均児童数(人)	527	511		33.9	70,538
酒井根中学校	8,141	3年平均生徒数(人)	662	499		33.5	88,070
酒井根保育園	1,786	3年平均園児数(人)	238	133		35.2	11,892
酒井根東小こどもルーム	95	3年平均入所児童数(人)	44	42		13.5	3,214
酒井根小こどもルーム	91	3年平均入所児童数(人)	49	42		17.5	4,450
酒井根西小こどもルーム	121	3年平均入所児童数(人)	35	42		12.5	3,555
柏市消防団第3方面第7分団器 具置場	62	保有面積(㎡)	62	75		23.1	
合計	28,150				平均	27.2	

④人口の現状と見通し

- ・地区の人口は、2014年現在12,671人（全地区平均20,491人）、2040年予測で12,006人（全地区平均20,262人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると5.2%の減少、また、2040年の高齢化率は31.2%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口の微減、老年人口の微増が予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約0.12㎡の増加となっており、現在の保有水準は概ね維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 61 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（酒井根地区）



5-3-18 風早北部地区

①地区の概要

- ・風早北部地区は、地区の中央部に住宅地が密集し、その外側にまとまった農地や森林等が残る自然環境豊かな地域です。
- ・地区の中央部は、土地区画整理事業により、中層住宅と戸建住宅が計画的に配置された住宅市街地が形成されています。
- ・国道16号沿いには、沿道型の商業施設等が立地し、千葉方面へ南下すると、風早工業団地が形成されています。
- ・手賀沼周辺や大津川流域には、農地がまとまって存在し、地区の東部では、大規模なニュータウンが造成されています。

②まちづくりの課題

- ・地区の核となる賑わい拠点の整備や、バス輸送の改善、水辺環境の活用を進めていくことが課題となっています。

③公共施設の状況

- ・地域対応施設は、地区内に17施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は3,657㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.28㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は27.3年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・風早中学校は、市内平均と比べて生徒数が少なく、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中でも、生徒数が伸びないことが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境のあり方について検討を行う必要があります。
- ・大津ヶ丘第二小学校は、現在は学校規模は適正であるものの、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中では、将来的に学校規模は小規模となることが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境のあり方について検討を行う必要があります。

表 62 地域対応施設保有量等の状況（風早北部地区）

【平成26年度末現在】	風早北部地区	中分類	小分類	施設数	延床面積(m ²)
地区人口(人)	25,664	01集会施設	01近隣センター		
地区面積(km ²)	9.0		02自治会館等		
面積1km ² あたり地域対応施設保有量(m ² /km ²)	3,657	01図書館	01図書館	2	853
人口1人あたり地域対応施設保有量(m ² /人)	1.28	01学校	01小学校	3	16,956
			02中学校	2	13,292
		01保育園	01保育園		
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	4	448
		02消防施設	01消防庁舎	1	989
			02消防団器具置場	5	339
		合計		17	32,876

■ 01図書館
 ■ 01小学校
 ■ 02中学校
 ■ 02こどもルーム
 ■ 01消防庁舎
 ■ 02消防団器具置場

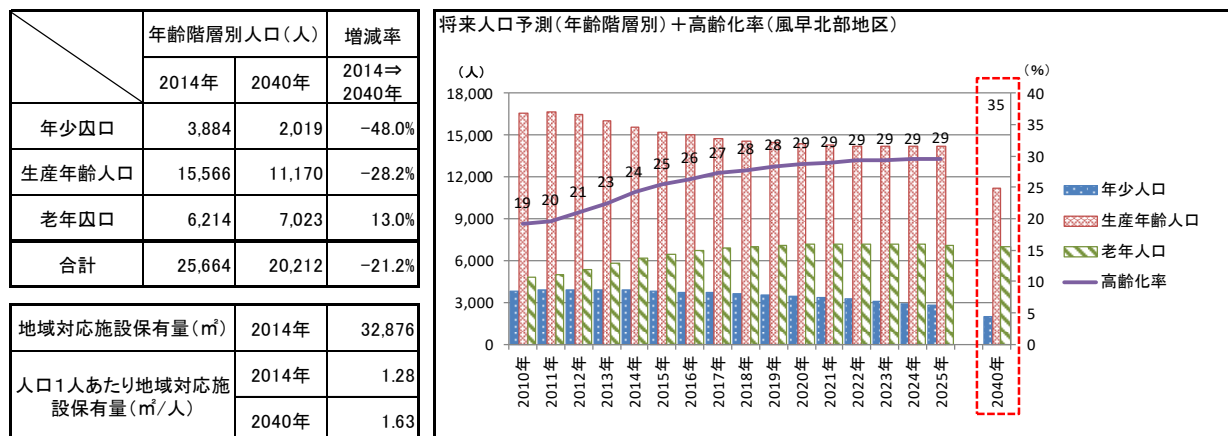
表 63 地域対応施設利用量等の概要（風早北部地区）

施設名称	延床面積(m ²)	利用量(H24～H26)			利用率(%)	経過年数(年)	市負担額(千円)
		3年平均年間貸出冊数(冊)	3年平均年間貸出冊数(冊)	市内平均			
図書館沼南分館	380	3年平均年間貸出冊数(冊)	82,246	117,010		33.8	5,437
図書館こども図書館	473	3年平均年間貸出冊数(冊)	145,550	117,010		34.2	35,009
風早北部小学校	6,105	3年平均児童数(人)	760	511		43.2	106,042
大津ヶ丘第一小学校	5,968	3年平均児童数(人)	364	511		35.9	49,914
大津ヶ丘第二小学校	4,882	3年平均児童数(人)	388	511		36.0	58,307
風早中学校	6,008	3年平均生徒数(人)	324	499		38.7	67,064
大津ヶ丘中学校	7,283	3年平均生徒数(人)	481	499		34.6	52,455
大津ヶ丘一小こどもルーム	115	3年平均入所児童数(人)	47	42		12.0	5,184
大津ヶ丘二小こどもルーム	98	3年平均入所児童数(人)	43	42		20.7	5,267
風早北部小こどもルーム	107	3年平均入所児童数(人)	57	42		13.0	3,735
風早北部小こどもルーム第二保育室	128	3年平均入所児童数(人)	31	42		3.1	5,818
沼南消防署	989	3年平均出動件数(件)	2,289	2,106		35.1	368,552
柏市消防団第4方面第4分団器具置場	93	保有面積(m ²)	93	75		28.4	
柏市消防団第4方面第5分団器具置場	111	保有面積(m ²)	111	75		2.0	
柏市消防団第4方面第6分団器具置場	45	保有面積(m ²)	45	75		30.3	
柏市消防団第4方面第7分団器具置場	45	保有面積(m ²)	45	75		30.3	
柏市消防団第4方面第8分団器具置場	45	保有面積(m ²)	45	75		32.2	
合計	32,876				平均	27.3	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014 年現在 25,664 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 20,212 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 21.2%の減少、また、2040 年の高齢化率は 34.7%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口が増加することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.35 m²の増加となっており、現在の保有水準よりも増加するため、人口構成に合わせた施設機能の再編や、総量の縮減等が必要となります。

表 64 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（風早北部地区）



5-3-19 風早南部地区

①地区の概要

- ・風早南部地区は、地区の西部に住宅地が形成され、その他については、まとまった農地や森林等が残る自然環境豊かな地域です。
- ・地区の西部、高柳駅より西側については、松戸市と一体的に整備された計画的な住宅地が形成されています。
- ・地区の南部は、海上自衛隊下総航空基地が広く占め、北部や東部は、農地や森林等を主とし、密度の低い集落や住宅地が点在しています。

②まちづくりの課題

- ・計画的に基盤整備を進め、良好な住宅地環境の形成を図っていくことが課題となっています。
- ・また、交通環境が十分ではなく、骨格道路の整備や公共交通のアクセス性向上を図り、利便性の高い交通ネットワークを形成することが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に17施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は2,549㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は1.21㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は23.7年で、30年を老朽化の基準とすると、やや老朽化している状況にあります。

表 65 地域対応施設保有量等の状況（風早南部地区）

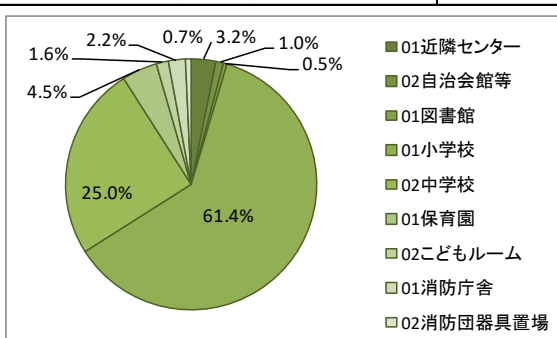
【平成26年度末現在】	風早南部地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)	
地区人口(人)	22,523	01集会施設	01近隣センター	1	868	
地区面積(k㎡)	10.7		02自治会館等	1	267	
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	2,549	01図書館	01図書館	1	127	
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	1.21	01学校	01小学校	3	16,775	
			02中学校	1	6,827	
		01保育園	01保育園	2	1,243	
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	4	427	
		02消防施設	01消防庁舎	1	598	
			02消防団器具置場	3	198	
		合計			17	27,329

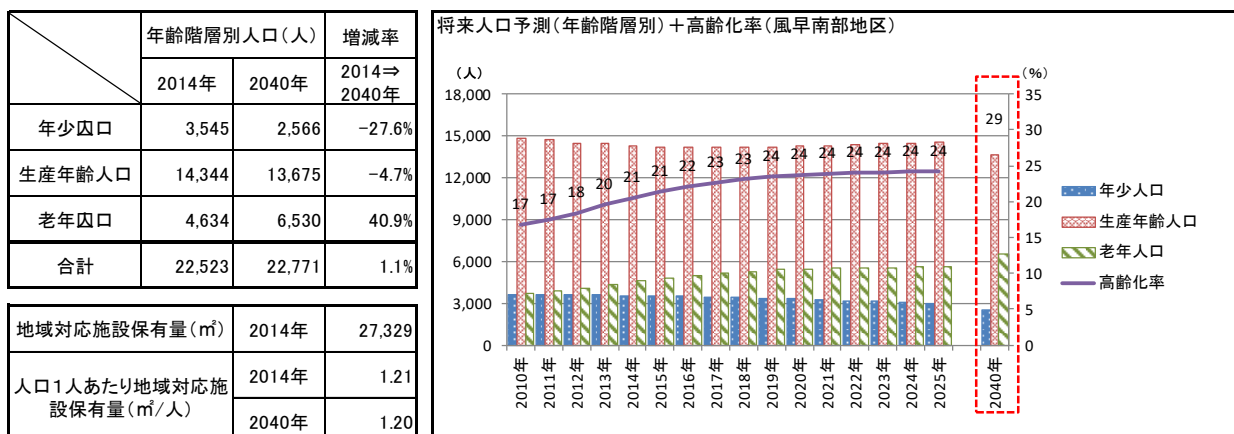
表 66 地域対応施設利用量等の概要（風早南部地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)		利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
		市内平均				
高柳近隣センター	868	3年平均利用者数(人)	42,927	34,670	43.0%	23,258
藤ヶ谷区民会館	267				44.0	
図書館高柳分館	127	3年平均年間貸出冊数(冊)	87,335	117,010	20.0	4,846
風早南部小学校	5,963	3年平均児童数(人)	299	511	4.7	63,068
高柳小学校	5,961	3年平均児童数(人)	695	511	37.3	60,892
高柳西小学校	4,851	3年平均児童数(人)	468	511	27.2	54,938
高柳中学校	6,827	3年平均生徒数(人)	561	499	32.2	78,760
高柳保育園	493	3年平均園児数(人)	66	133	31.6	3,869
高柳西保育園	751	3年平均園児数(人)	92	133	17.0	30,269
高柳小こどもルーム	115	3年平均入所児童数(人)	62	42	20.7	-709
高柳小こどもルーム第二保育室	55	3年平均入所児童数(人)	30	42	0.9	8,346
高柳西小こどもルーム	115	3年平均入所児童数(人)	46	42	16.0	4,614
風早南部小こどもルーム	142	3年平均入所児童数(人)	35	42	4.0	4,768
沼南消防署高柳分署	598	3年平均出動件数(件)	1,434	2,106	29.0	196,443
柏市消防団第4方面第1分団器具置場	73	保有面積(㎡)	73	75	32.0	
柏市消防団第4方面第2分団器具置場	80	保有面積(㎡)	80	75	33.3	
柏市消防団第4方面第3分団器具置場	45	保有面積(㎡)	45	75	33.4	
合計	27,329			平均	23.7	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在 22,523 人（全地区平均 20,491 人）、2040 年予測で 22,771 人（全地区平均 20,262 人）です。
- ・将来人口予測において、2040 年の地区人口を 2014 年と比較すると 1.1%の増加、また、2040 年の高齢化率は 28.7%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口が減少し、老年人口が大きく増加することが予想されていることから市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口 1 人あたり地域対応施設保有量は、2040 年予測では約 0.01 ㎡の減少となっており、現在の保有水準は維持されるため、人口構成の変動に合わせて、施設機能の見直し等を図ることが必要となります。

表 67 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（風早南部地区）



5-3-20 手賀地区

①地区の概要

- ・手賀地区は、地域全体が市街化調整区域に属し、森林や緑地などの自然環境と、水田や畑等の農地の広がりの中に、集落が点在する地域です。

②まちづくりの課題

- ・自然・田園環境の保全維持に努め、都市生活を支える諸施設の利便性、安全性の向上を図っていくことが課題となっています。

③公共施設（地域対応施設）の現状分析

- ・地域対応施設は、地区内に14施設あります。
- ・地区面積1k㎡あたり地域対応施設保有量は517㎡/k㎡（全地区平均8,166㎡/k㎡）で、地区人口1人あたり地域対応施設保有量は2.52㎡/人（全地区平均1.26㎡/人）です。
- ・地区内地域対応施設の平均経過年数は28.1年で、30年を老朽化の基準とすると、老朽化が進行している状況にあります。
- ・手賀西小学校及び手賀東小学校は、市内平均と比べて児童数が少なく、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中でも、児童数が伸びないことが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境等のあり方について検討を行う必要があります。
- ・手賀中学校は、市内平均と比べて生徒数が少なく、「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」の中でも、生徒数が伸びないことが予測されていることから、小規模校としての将来的な教育環境のあり方について検討を行う必要があります。

表 68 地域対応施設保有量等の状況（手賀地区）

【平成26年度末現在】	手賀地区	中分類	小分類	施設数	延床面積 (㎡)
地区人口(人)	4,579	01集会施設	01近隣センター		
地区面積(k㎡)	22.3		02自治会館等		
面積1k㎡あたり地域対応施設保有量 (㎡/k㎡)	517	01図書館	01図書館		
人口1人あたり地域対応施設保有量 (㎡/人)	2.52	01学校	01小学校	2	6,082
			02中学校	1	4,027
		01保育園	01保育園		
		02幼児・児童施設	02こどもルーム	1	64
		02消防施設	01消防庁舎	1	840
			02消防団器具置場	9	516
		合計			14

01小学校
02中学校
02こどもルーム
01消防庁舎
02消防団器具置場

表 69 地域対応施設利用量等の概要（手賀地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)		利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均			
手賀西小学校	2,929	3年平均児童数(人)	146	511	36.8	45,110
手賀東小学校	3,152	3年平均児童数(人)	48	511	28.0	40,437
手賀中学校	4,027	3年平均生徒数(人)	73	499	37.1	41,907
手賀西小こどもルーム	64	3年平均入所児童数(人)	9	42	36.8	2,938
沼南消防署手賀分署	840	3年平均出動件数(件)	378	2,106	3.1	148,546
柏市消防団第5方面第1分団器具置場	45	保有面積(㎡)	45	75	31.4	
柏市消防団第5方面第2分団器具置場	45	保有面積(㎡)	45	75	32.3	
柏市消防団第5方面第3分団器具置場	76	保有面積(㎡)	76	75	26.2	
柏市消防団第5方面第4分団器具置場	70	保有面積(㎡)	70	75	24.0	
柏市消防団第5方面第5分団器具置場	45	保有面積(㎡)	45	75	33.4	
柏市消防団第5方面第6分団器具置場	45	保有面積(㎡)	45	75	31.5	
柏市消防団第5方面第7分団器具置場	70	保有面積(㎡)	70	75	11.3	
柏市消防団第5方面第8分団器具置場	60	保有面積(㎡)	60	75	30.3	
柏市消防団第5方面第9分団器具置場	60	保有面積(㎡)	60	75	31.4	
合計	11,528			平均	28.1	

④人口の推移・将来予測

- ・地区の人口は、2014年現在4,579人（全地区平均20,491人）、2040年予測で2,951人（全地区平均20,262人）です。
- ・将来人口予測において、2040年の地区人口を2014年と比較すると35.6%の減少、また、2040年の高齢化率は43.4%となっています。
- ・将来人口予測では、年少人口及び生産年齢人口が減少することが予想されていることから、市民ニーズに合わせた施設機能の見直しや余裕空間の利活用等を検討する必要があります。
- ・人口1人あたり地域対応施設保有量は、2040年予測では約1.39㎡の増加となっており、現在の保有水準よりも大幅に増加するため、人口構成に合わせた積極的な施設機能の再編や見直し、総量の縮減等が必要となります。

表 70 年齢階層別将来人口予測及び高齢化率の推移等（手賀地区）

